

# 第3次防府市生涯学習推進計画

## 令和4年度事業実施報告書

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(1) 生涯学習意識の醸成
施策の展開	① 生涯学習情報発信の充実
施策の方針	市民の生涯学習意識の醸成や学ぶことに対する意欲の高揚をはかるため、必要とされる生涯学習情報を適切に提供する仕組みの充実やさまざまな啓発・広報活動の充実を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容の 施策の 連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)	評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課	
								課題				
ア 総合的生涯学習情報の収集・提供	1	生涯学習関係機関との連携による学習情報の収集	関係機関の生涯学習情報の収集を行う。文化センター、公民館等での講座など(担当:公民館係)	講座情報の収集 文化センター、公民館、防府市地域交流センター、青少年科学館他、関係機関の情報収集及びホームページ(生涯学習メニューブック)への掲載	B	文化センター、公民館、防府市地域交流センター、青少年科学館他、関係機関の情報収集及びホームページ等への掲載	-	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	ホームページ等により、各関係機関の講座情報の収集を行うことができた。 新たな関係機関の学習情報を収集する方法の検討が必要である。	B	最新の情報を得るため、定期的に関係機関への情報収集を行うよう努める。	生涯学習課
	2	市の学習情報の一元的な管理	市職員が講師となる講座の管理を行う。開いて得するふるさと講座(担当:生涯学習係)	開いて得するふるさと講座 31課66メニュー	B	開いて得するふるさと講座 31課64メニュー 申込件数:112 実施件数:109	22	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	申込数は増加傾向にある。 市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、メニューの見直しが必要である。	B	引き続き、各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実に努める。	生涯学習課
	3	生涯学習のきっかけづくり	生涯学習フェスティバル、セミナー等において、市民自らが体験を行うことやPR活動を通して、生涯学習のきっかけづくりを行う。生涯学習フェスティバル、学ぼうやセミナー等(担当:生涯学習係)	「春季学ぼうやセミナー」13講座、参加者(延べ307人) ※「夏季学ぼうやセミナー」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止	B	・生涯学習フェスティバル 開催日:令和5年2月26日(日) 来場者数:延べ2,428人 内容:自主企画講座、講演、ものづくり、文化センター市民教養講座・サークル作品展、学ぼうやコンテスト等 ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和4年7月30日(土)開催 18講座、参加者(延べ308人) 【春季】令和5年2月26日(日)開催 17講座、参加者(延べ312人)	618	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	生涯学習フェスティバルなど、概ね計画どおりに事業を実施できた。 講座によって集客にばらつきがあるので会場配置やPR方法に工夫が必要である。	B	生涯学習フェスティバルをはじめ、より多くの方に生涯学習に触れていただけるように、引き続き、ラジオや広報誌等を活用して講座等の幅広い周知に努める。	生涯学習課
	4	市広報やホームページ等のさまざまなメディアを活用した学習情報の提供	各学習情報の市広報や市ホームページ、テレビ、ラジオ等を活用し情報提供を行う。生涯学習課、社会福祉協議会、市民活動支援センターが協力して作成した「まなぼら」や「まなぼうやだより」を活用し情報提供を行う。(担当:生涯学習係)	各種講座等の市広報への掲載 各団体のホームページ及び生涯学習課ホームページへの掲載 FMわっしょい「防府市からのお知らせ」への出演 まなぼら発行(4回) まなぼうやだより発行(2回)	B	各種講座等の市広報への掲載 各団体のホームページ及び生涯学習課ホームページへの掲載 FMわっしょい「防府市からのお知らせ」への出演 まなぼら発行(4回) まなぼうやだより発行(3回)	154	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	計画どおりに広報への掲載や情報誌の発行を実施できた。 市広報・情報紙は、有効な情報発信の方法ではあるが、その効果を計ることは難しい。 関心の低い年齢層への更なる情報発信が必要である。	B	引き続き市広報・情報紙等により情報発信を行うとともに、若い年齢層に有効な広報媒体であるインターネット(SNS)等を活用した情報の発信に努める。	生涯学習課

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(2) 多様な学習機会の提供
施策の展開	① ライフステージに応じた学習機会の充実
施策の方針	生涯の各時期における課題に対応した学習を行うことが求められている。このため、一生を時期の特性などにより、乳幼児期、少年期・青年期、成人期・高齢期に区分し、各時期のニーズに応じた学習機会の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 乳幼児期における学習機会の提供	5	子育てサークル等の親子で参加できる遊びや交流の機会の提供	乳幼児の親子が交流できる場所として、「子育てサークル」「わいわいHOFUっ子の集い」等を開設する。	各地区子育てサークル:3地区(6回)参加者(延べ65組) わいわいHOFUっ子の集いは、感染拡大防止のため実施せず。	B	各地区子育てサークル:14地区(44回)参加者(延べ410組) わいわいHOFUっ子の集いは、感染拡大防止のため実施せず。	345	B	4	コロナ禍で中止・縮小が続いていたが、今年度は全地区開催できた。参加した親子同士の交流が図れ、大変喜ばれた。また、地域の他団体とも交流を持ち開催した地区もあった。	B	人数制限については、今後の感染対策動向を見ながら安全に実施する方法を検討する。小規模地区では、今年度同様に、土日開催等も検討し、地域の親子が参加しやすく交流が図れるよう工夫していく。	健康増進課
	6	子育て世代が必要とする出産や育児に関する学習機会の提供	妊婦とパートナーを対象に、助産師・保健師・管理栄養士の講話や妊婦ジャケットの着用・赤ちゃん人形での抱き方の練習等の体験を通じて、出産・子育てについての心構えを学び知識を学ぶ教室を開催する。また、栄養士によるミニ離乳食教室やゆっくり子育て学び塾により認定心理士の講話や学ぶロールプレイングの実習を行う。  両親学級、ミニ離乳食教室、理学療法士相談、乳幼児相談、ゆっくり子育て学び塾等	両親学級:(7回)参加者(延べ73組140人) ミニ離乳食教室:11回(月1回)参加者(延べ144組) 理学療法士相談:(6回)参加者(延べ25人) 乳幼児相談:23回(月2回)参加者(延べ662人) ゆっくり子育て学び塾:(4回)参加者(延べ33人)	B	両親学級:(5回)参加者(延べ77組151人) ミニ離乳食教室:12回(月1回)参加者(延べ139組) 理学療法士相談:6回、参加者(延べ15人) 乳幼児相談:34回(月3回)参加者(延べ916人) ゆっくり子育て学び塾:(6回)参加者(延べ46人)	893	B	3	妊娠前から子育て世代が、安心して出産・子育てができるよう、相談及び情報を得る場や交流する場を提供できた。また、乳幼児相談においては、チラシに1年間の日程を入れ、小児科でも配布してもらうなど、周知に努めた。	B	参加して知識を得る、専門職に相談するだけでなく、参加者同士が交流できるような運営方法など工夫していく。また、より多くの保護者が乳幼児相談を気軽に利用できるよう、引き続き小児科でのチラシ配布を行う。 ゆっくり子育て学び塾は、参加者の減少にともない、テーマを見直して実施する。	健康増進課
								事業効果	3	これまでは、コロナ禍により感染対策に配慮した運営だったため、参加者が減り、交流機会が持ちにくかったことが課題である。参加するだけでなく、参加者同士が交流し合うことで解決できることもあるため、運営や会場設営の工夫が必要である。			
								効率性	3				
	7	家庭教育学級等の地域住民や保護者を対象とした子育て講演会の開催	各公民館や文化センターにおいて、子育てや家庭教育に関する講座(家庭教育学級)や、親子や地域でのふれあい活動などを行う。  地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育て及び子育て支援に関する講習等を開催する。	各公民館家庭教育学級:参加者(延べ822人) 合同家庭教育学級:新型コロナウイルスの影響により開催中止	B	各公民館家庭教育学級:参加者(延べ1,604人)	5,824	B	3	家庭教育学級など、概ね計画どおりに実施することができた。	B	多様化するニーズに対応した講座や教室の充実を図る。	生涯学習課
								事業効果	3	社会情勢や家庭環境の変化に伴う多様化するニーズに対応した講座や教室の充実が必要である。			
								効率性	3				
7	家庭教育学級等の地域住民や保護者を対象とした子育て講演会の開催	各公民館や文化センターにおいて、子育て子育てや家庭教育に関する講座(家庭教育学級)や、親子や地域でのふれあい活動などを行う。  地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育て及び子育て支援に関する講習等を開催する。	各公民館家庭教育学級:参加者(延べ822人) 合同家庭教育学級:新型コロナウイルスの影響により開催中止	B	各公民館家庭教育学級:参加者(延べ1,604人)	53,018	B	3	地域の未就園児と保護者同士の交流が図れた。	B	地域子育て支援拠点施設が子育て親子の交流の場となるよう、引き続き実施する。	子育て支援課	
							事業効果	3	社会情勢や家庭環境の変化に伴い多様化するニーズに対応した内容の検討が必要である。				
							効率性	3					

施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課	
								到達度	事業効果	効率性				課題
イ 青少年期における学習機会の提供	8	学校・地域・企業等との連携・協働による体験・交流活動の推進	子どもが個性豊かに生きる力を育むため、学校と地域や企業等との連携・協働による、ボランティア活動や体験・交流活動に努める。 清掃活動、職場体験等	地域との連携による奉仕活動(清掃活動、地域行事への積極的な参加) 職場体験(小学校一部、中学校、高等学校一部)	B	地域との連携による奉仕活動(清掃活動、地域行事への積極的な参加) 職場体験(小学校一部、中学校、高等学校一部)	-	B	3	3	学校と地域で熟議を行い清掃活動を行った。 コミュニティ・スクールの取組としての地域貢献活動(子どもたちの地域行事等への積極的な参加)を推進していく必要がある。 スポーツ少年団や部活動等の大会と地域行事の重なりを解消するための日程調整が難しい。	B	継続して実施する。	学校教育課
	9	放課後子ども教室等の地域における世代間交流活動の機会の提供	公民館活動(家庭学級)や放課後子ども教室等において、地域における世代間の交流により、双方の理解を深める機会の提供を行う。 琴、門松づくり、しめ縄作り、お餅つき、昔あそび、紙芝居、朗読劇、凧揚げ	公民館、放課後子ども教室・輪飾り、門松づくり、しめ縄作り、昔あそび、竹細工、茶道、凧揚げ	B	公民館、放課後子ども教室・輪飾り、門松づくり、しめ縄作り等	-	B	3	3	各公民館や放課後子ども教室で、地域における世代間交流の機会を提供することができた。 世代間交流を行っていない公民館があるため、可能な範囲で活動の中に取り入れていく必要がある。	B	継続して実施する。	生涯学習課
	10	音楽・演劇などの学校公演による優れた舞台芸術に触れる機会の提供	防府市青少年劇場を開催し、優れた芸術を体験学習する機会を提供する。	・広田智之:オーボエコンサート(12月)華浦小、桑山中 ・原田英代:ピアノコンサート(12月)牟礼南小、小野中参加者(延べ1,192人)	B	・広田智之:オーボエコンサート(11月)牟礼南小、牟礼中 ・原田英代:ピアノコンサート(12月)華浦小、桑山中参加者(延べ1,055人)	597	B	3	3	防府市出身の優れた演奏家に依頼することで、優れた芸術に触れる機会を安価で提供することができた。 公演募集に応募のない学校がある。	B	学校の積極的な応募を促す。	文化振興課(文化・スポーツ課)
	11	国際性豊かな人づくりを目的とした姉妹都市市への相互派遣事業の充実	姉妹都市市との友好交流を通じて、国際感覚を備えた人材を育成するとともに、姉妹都市市間交流事業を実施する団体を支援する。 アメリカ合衆国モンロー市との高校生相互派遣事業等	新型コロナウイルス感染症の影響により、アメリカ合衆国モンロー市との高校生相互派遣事業が中止となっている。	C	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度も事業を中止した。	-				新型コロナウイルス感染症の影響が続いていたことから、モンロー氏との協議の上、事業を中止した。 新型コロナウイルス感染症の影響は収まってきたが、再開に当たっては、持続可能な交流となるよう事業内容の見直しが必要である。	C	交流事業の再開に向け、モンロー市及び関係団体等と事業内容の見直しを協議する。	文化振興課(地域振興課)
	12	いのちの学習事業の充実	小学生、中学生が、自分の命の起源、家族の育児の様子などについて知ること、自分を大切に他人を思いやる心を持つことができるように助産師、保健師による健康教育を行う。	小学校1校で実施(24人)	B	小学校2校で実施(95人)	-	B	3	3	計画通り2校で実施できた。アンケート結果からも目的は達成できた。 母子保健を担当する健康増進課、学校、関係機関と課題を共有し、思春期保健に継続して取り組む必要がある。	B	R5年度実施に向け意向調査を実施したところ、9校の希望があった。健康増進課では3校実施するが、他は他機関の情報提供をおこなった。今後、実施体制を検討していく。	健康増進課
	13	思春期子育て講座の開催	中学生の子どもを持つ保護者及び生徒を対象に多様化、深刻化する青少年の問題に対処するため、思春期子育てについて学習する機会を提供する。	思春期子育て講座(10校)7～11月にかけて実施	B	思春期子育て講座7～12月にかけて実施実施中学校(9校)(新型コロナウイルス感染症の影響により、2校中止)	90	B	3	3	概ね計画どおり事業を実施することができた。 思春期子育て講座の開催のない学校がある。	B	継続して実施し、全中学校で開催できるように引き続き応募を促す。	生涯学習課
	14	ほうふみらい塾の充実	防府で学ぶこと、防府を学ぶこと、防府から学ぶこととおして、児童生徒の“ふるさと防府”を愛する心を育む。	参加者数25名。「ほうふみらい塾」として8回の基本講座を実施予定であったが、うち3回中止。オプション講座を4回実施した。	B	参加者数15名。「ほうふみらい塾」として8回の基本講座を実施した。オプション講座を4回実施した。	621	B	3	3	ICTの活用により、天候や感染症拡大に影響されずに実施できた。 講座の充実を図るとともに地域にある他団体とのより深い連携が必要である。	B	10回の基本講座と複数回のオプション講座を実施する。	学校教育課

施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課	
								到達度	効率性	課題				
ウ 成人期・高齢期における学習機会の提供	15	市民教養講座等の勤労者のニーズに応じた学習機会の提供	市民教養講座等の就労者が参加しやすい学習環境づくりや職業上必要な知識や技能の習得に対応した学習メニューの提供に努める。	・市民教養講座 土曜開講講座や夜間講座	B	・市民教養講座 土曜開講講座や夜間講座	-	B	3	計画どおりに講座を実施することができた。	B	継続して実施する。	生涯学習課	
	16	健康教室等の健康づくりに関する学習機会の提供	病気になるための生活習慣の見直し、運動に関する学習機会を提供する。  スリムあっぷ教室(生活習慣改善教室)、健診結果説明会、特定保健指導、健康教室	スリムあっぷ教室(生活習慣改善教室)の開催:(食事編:2回、運動編:3回)参加者(食事編:延24人、運動編:延39人)健診結果説明会(4回):参加者(5人)特定保健指導の実施:参加者(39人)健康教室実施人数:(42回)参加者(延べ718人)	B	生活習慣改善教室の開催:(食事編2回、運動編4回)参加者(食事編:延18人、運動編:延66人)特定保健指導の実施:参加者(32人)健康教室実施人数:(47回)参加者(延べ982人)	407	B	3	生活習慣改善教室では食生活の振り返りや、日常生活に取り入れやすい運動・食事の情報提供ができた。特定保健指導では対象者への電話勧奨を行い、指導につなげた。	B	コロナ禍で中止していた生活習慣改善教室の食事編で、調理実習を再開していく。参加の応募が少ない回は、開催前にメールでも募集をかけるなど工夫していく。特定保健指導は申し込みが少ないため、引き続き電話勧奨を行っていく。	健康増進課	
								到達度	3	生活習慣を改善したい人へ生活の振り返りの機会となった。参加者数が少ないため、周知の工夫が必要である。				
								事業効果	3					
17	ほうふスポーツフェスタ等の生涯にわたるスポーツに親しむ機会の提供	誰もが生涯にわたり、それぞれの目的や状況に応じて、気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供を行う。  ほうふスポーツフェスタ、市民体育祭、市内一周駅伝競走大会等	ほうふスポーツフェスタ2021(11月7日)市内一周駅伝競走大会(1月9日)各種大会・教室・講習会	B	ほうふスポーツフェスタ2022(10月16日)市内一周駅伝競走大会(1月8日)各種大会・教室・講習会	1,200 231 参加費	B	3	いずれの事業も、前年度より参加者も増え、市民にスポーツに親しむ機会を提供することができた。	B	より多くの人が参加しやすいように、内容を工夫して実施する必要がある。	B	より多くの人が参加しやすいよう工夫をしながらか継続して実施する。	スポーツ振興課(文化・スポーツ課)
							到達度	3						
							事業効果	3						
							効率性	3						
18	高齢者教室等の高齢者の生きがいづくりにつながる学習機会の提供	高齢者のいきがいづくりとして、公民館による高齢者教室や、豊かな老後を創造することに寄与するため老人大学校等を開催する。  高齢者教室	高齢者教室:14公民館で実施(105講座)参加者(延べ1,719人)防府市高齢者教室運営委員長研修会:(1回)参加者(37人)	B	高齢者教室:14公民館で実施(136講座)参加者(延べ2,252人)防府市高齢者教室運営委員長研修会:荒天により中止	5,824	B	3	各公民館で、概ね計画どおりに事業を実施することができた。	B	魅力ある充実したカリキュラムとするための内容の選定等に苦慮している。	B	継続して実施する。	生涯学習課
							到達度	3						
							事業効果	3						
							効率性	3						
	老人大学校	老人大学校:(年9講座)参加者(延べ153人)総合社会福祉大会:中止いきいきシルバーの集い:令和2年度から、総合社会福祉大会に統合された。	老人大学校:(年10講座)参加者(延べ300人)	B	200	B	3	老人大学校の各講座を通して、高齢者に対する学びの場を提供することができた。	B	受講後、地域参加に繋がり、多くの方に参加してもらえるような講座内容とする必要がある。	B	講座内容を見直し、継続して実施する。	高齢福祉課	
						到達度	3							
						事業効果	3							
						効率性	3							

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(2) 多様な学習機会の提供
施策の展開	② 現代的課題に対応する学習機会の充実
施策の方針	現代社会において、問題や課題が複雑かつ多様化していることから、その解決に取り組むうえで発生するニーズに応じた学習活動を支援するための学習機会の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	19	防災出前講座等の安全・安心な暮らしにつながる知識や技術を得るための学習機会の提供	市民一人ひとりが安全・安心に暮らせるよう防災・防犯に関する学習機会の提供を行う。 防災出前講座、防府市防災士養成講座、自主防災組織リーダー研修  消費生活講座	・防災出前講座(26回)参加者(延べ1,268人) ※聞いて得するふるさと講座(自主防災・ハザードマップを含む)。 ・防府市防災士養成講座(1回:2日間)受講者 42人 ・防災リーダー研修【1回目】(2回)受講者 185人【2回目】(4回)受講者 137人 ・女性向け防災セミナー【全体版】参加者24人【地域版】(3回)佐波・西浦・玉祖地域受講者 37人	B	・防災出前講座(34回)参加者(延べ1,059人) ※聞いて得するふるさと講座(自主防災・ハザードマップを含む)。 ・防府市防災士養成講座(1回:2日間)受講者 47人 ・防災リーダー研修【1回目】(2回)受講者 233人【2回目】(2回)受講者 219人 ・女性向け防災セミナー【地域版】(3回)大道・牟礼・富海地域受講者 合計51人	2,558	B	3	いずれの事業も継続して実施することができた。  市民一人ひとりの安心・安全な暮らしを守るためには、より積極的なPRが必要である。	B	多様な場面において、積極的なPRに努め、継続して実施してきたい。	防災危機管理課
								到達度	3				
								事業効果	3				
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	20	地域福祉推進セミナー等の社会福祉協議会との連携による地域福祉教育の推進	防府市社会福祉協議会との連携により、あらゆる世代が参加できるイベントや研修会を通して、啓発活動を行い、住民参加の推進を行う。  防府市障害者福祉啓発セミナー  防府市地域福祉推進セミナー	・消費生活講座:(3回)参加者(延べ79人) ・出前講座:(2回)参加者(延べ37人) ※高齢者対象	B	・消費生活講座:(3回)参加者(延べ79人) ・出前講座:(3回)参加者(延べ49人) ※高齢者対象	10	B	3	市民に対し、消費生活に役立つ情報の提供や、悪質商法や特殊詐欺等への注意喚起・啓発を行うことにより、消費生活に役立つ知識の提供を行うことができた。  消費者被害を防止するため、知識取得のみではなく、日常的に消費生活に関心を持ち、自ら考えて行動できる「賢い消費者」を育成する必要がある。	C	次年度以降、「賢い消費者」を育成するため、より市民が関心を持ち、参加しやすいオープンセミナーを開催する。また、市の啓発活動等に協力する人材「消費生活スーパーサポーター」を育成する。	広報広聴課
								到達度	3				
								事業効果	3				
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	20	地域福祉推進セミナー等の社会福祉協議会との連携による地域福祉教育の推進	防府市障害者福祉啓発セミナー  防府市地域福祉推進セミナー	・新型コロナウイルス感染症の影響により、防府市地域福祉(福祉の輪づくり)推進セミナーは中止となった。	B	防府市地域福祉推進セミナー 演題「地域共生社会と地域福祉活動について」 令和5年1月30日(月) 参加者(60人)	65	B	3	地域共生社会を目指し「我がこと」としてお互いに助け合える地域づくりと、地域に根ざす施設の歴史を学習できた。  障害者を含めた誰もが暮らしやすい防府の地域づくりのため、引き続き、啓発に努める必要がある。	B	テーマは、情勢や地域の実情に合ったものとし、幅広い分野や世代の参加を促す。	障害福祉課
								到達度	3				
								事業効果	3				
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	21	国際交流フォーラムや国際交流フェスティバル等、異文化を理解する機会の提供	多文化と共生できるまちづくりのため、春の国際交流フォーラム、国際交流フェスティバル、国際交流ほうほう周遊バス、在住外国人支援事業、防府市国際交流団体連絡協議会(事務局:国際交流室)が主催する市民及び市内在住外国人を対象とした事業や市民の国際交流活動を支援する。	新型コロナウイルス感染症の影響により、防府市国際交流団体連絡協議会主催事業である国際交流フォーラム及び国際交流フェスティバルは開催できていない。	C	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度も事業を中止した。	-	到達度	△	新型コロナウイルス感染症の影響が続いていたことから、事業を中止した。  運営に関する知識や経験が途絶えており、再開に当たり、関係団体等と事業の見直しも含めた協議が必要となる。	C	事業の再開に向け、関係団体等と事業内容の見直しを含めて協議する。	文化振興課(地域振興課)
								事業効果	△				
								効率性	△				

内容 施策の	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	事業効果	課題			
ア 多様なニーズ に対応した学習 機会の提供	22	スマートフォンやタブレット端末、パソコン講座等のデジタル社会に対応した学習機会の充実	<p>情報化社会に対応しパソコン等を取り入れた学習機会の充実を図る。</p> <p>防府地域職業訓練センターパソコン講座 文化福祉会館等パソコン講座</p>	<p>防府地域職業訓練センターパソコン講座 [種目] ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等</p>	B	<p>防府地域職業訓練センターパソコン講座 [種目] ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等</p>	-	B		<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入し、勤労者、求職者等の職業能力の開発及び向上を促進している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>	B	<p>講座内容の充実と、効果的なPRを図る。</p>	<p>商工振興課</p>
								到達度	3				
	事業効果	3	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>										
効率性	4	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>											
				<p>文化福祉会館等パソコン講座 [種目] ワード、エクセル、年賀状作成等</p>		<p>ルルサス文化センター短期講座 [種目] ワード、エクセル、年賀状作成、スマートフォン講座等</p>	-	B		<p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>	B	<p>講座内容の充実と、効果的なPRを図る。</p>	<p>生涯学習課</p>
到達度	3	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>											
事業効果	3		<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>										
効率性	3	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>											
				<p>障害のある人が学ぶ機会の充実</p>	<p>障害のある人が、スポーツの楽しさを体験するとともに、市民の障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進するため、山口県障害者スポーツ大会への参加を支援する。</p> <p>また、防府市社会福祉協議会に委託し、障害のある人にスポーツ、レクリエーション等への参加機会の提供、生活訓練による日常生活能力等の向上を図る。</p> <p>県障害者スポーツ大会への参加支援、レクリエーション活動、生活訓練、防府市障害者体育大会</p>	C	<p>山口県障害者スポーツ大会の参加支援 ・11名参加(陸上、水泳、卓球、フライングディスク) ※全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会のみ開催、キラリンピックはコロナにより開催中止</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止(社協委託事業) ・レクリエーション活動 ・生活訓練 ・防府市障害者体育大会</p>	14	C		<p>山口県障害者スポーツ大会については、参加申込者の取りまとめ、当日の付き添い等による支援を行った。社協委託事業については、コロナにより開催中止となった。</p> <p>各行事の参加者はほぼ固定しており、新規参加者が少ない。</p>	B	<p>山口県障害者スポーツ大会については、令和5年度は派遣選手選考会だけでなく、キラリンピック(一般参加)も開催予定のため、多くの参加が見込まれる。関係者へ大会への参加を呼びかけるとともに、参加者への支援を行う。レクリエーション等については、社会福祉協議会と連携し、効果的な事業実施に努める。</p>
到達度	2	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>											
事業効果	2		<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>										
効率性	3	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>											
				<p>リカレント教育の推進</p>	<p>生涯を通じて知識と時代の変化に応じたスキルを獲得できるリカレント教育を推進する。</p> <p>各種講座等</p>		<p>公民館学級・教室、文化センター等で各種講座等を実施</p>	-	B		<p>講座内容の充実と、効果的なPRを図る。</p>	B	<p>生涯学習課</p>
到達度	3	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>											
事業効果	3		<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>										
効率性	3	<p>民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入している。</p> <p>講座内容の充実と効果的なPRが求められる。</p>											

内容 の 施策	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	3	課題			
イ 地域を学ぶ 機会の提供	25	公民館学級等の公民館におけるふるさとを学ぶ機会の提供	公民館学級(家庭教育学級・女性学級・高齢者教室)において、地域の歴史や伝統芸能、文化等を学び、教養を高めるとともに、後世に伝承する。	公民館学級・教室 地域の歴史 伝統・文化(埴物・鬼面・盆踊り) 防府市ゆかりの偉人紹介 (種田山頭火、毛利氏)	B	公民館学級・教室 地域の歴史 伝統・文化	5,824	B		学んだ伝統芸能や文化を継承している地域もあり、一定の効果が見られる。	B	公民館学級で学んだ伝統芸能や文化を世代間交流により継承している地域もあるが、他の地域においても学習機会を充実させ、成果を地域活動に活用するよう努める。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
	26	環境学習講座等の身近な地域の環境に関する学習機会の提供	環境に関する講座メニューや学習資料、啓発資料を必要・要望に応じて柔軟に準備し、幅広い環境学習機会の提供に努める。また、環境教育教材の作成等による環境教育の促進を図る。	環境副読本の作成及び各小学校(5年生)への配布。小中学校の「緑のカーテン」の育成状況について、HPやインスタグラム、Facebookにて紹介。緑花祭や幸せますフェスタにてブースの展示をし、昨年度に比べ啓発活動が行えた。	B	環境副読本の作成及び各小学校(5年生)への配布。 市内の全市立小中学校において、「緑のカーテン」を育成。 緑花祭やエコまつりにてブースを出展し、啓発活動を実施。 環境学習講座の開催 ・春の花と昆虫調べ ・海洋ごみ発生抑制講座 ・樹木医による自然観察会	1,365	B		前年度に比べ、多くのイベントでブースを出展し、啓発活動を実施した。今年度から海洋ごみ発生抑制講座を新規に開催し、関係機関と連携しながら実施することができた。	A	市内小中学校において、緑のカーテン育成や環境副読本の配布など、引き続き環境教育の促進を図る。また、市内小学校で専門機関と連携した環境学習講座を実施し、環境教育のさらなる充実を図る。	くらし環境課 (生活安全課)
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
	27	放課後子ども教室等における地域学習の機会の充実	学校を支援する活動の一つとして、放課後子ども教室の拡充を図るとともに、カリキュラムの一つとして、地域学習の取入れを行う。	放課後子ども教室事業を13地区で実施 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため一部の地区は開催中止	B	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)	3,568	B		新型コロナウイルス感染症のため規模を縮小していた放課後子ども教室も参加者・回数共に徐々に増えつつある。	B	情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、ボランティア養成講座等の機会を活用し、運営側のスキルアップを図る。また、学校主導型の地区については、状況に応じて地域主導型へ移行するなど、持続可能な体制づくりに努める。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
28	小・中学校における「防府歴史・文化財読本」の活用促進	社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行うなど、小・中学校における「防府歴史・文化財読本」の活用促進を図る。	社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行っている。	B	社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行っている。	-	B		防府市の歴史や文化について調査し、まとめる際に活用している	B	「防府歴史・文化財読本」の活用について、学校計画訪問時に指導する。	学校教育課	
							到達度	3					
							事業効果	3					
							効率性	2					
29	聞いて得するふるさと講座(出前講座)のメニューの充実	市民からの要請に基づき、市職員等を講師として派遣し行政情報等を提供することにより、市民の市政に関する理解を深めるとともに生涯学習意識の啓発を図る。	63講座実施 メニュー件数:66件 (新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため講座22件が中止)	B	31課64メニュー 申込件数:112 実施件数:109(3件中止)	22	B		申込数は増加傾向にある。	B	引き続き、各課に呼びかけを行い、メニューの見直しや内容の充実を努める。	生涯学習課	
							到達度	3					
							事業効果	3					
							効率性	3					



内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								課題	到達度	事業効果			
ウ キャリア教育の機会の充実	30	小・中学校におけるキャリア教育の計画的な取組の推進 地域との連携による身近な職場体験学習の機会の提供 商工会議所、職場体験学習受入企業等との連携協力体制の構築 地域・学校・企業等の協働によるさまざまな体験活動の推進	児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志を育むよう、教育活動全体を通じて、発達段階に応じて系統的・計画的なキャリア教育を推進する。社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図るため、商工会議所・職場体験学習受入事業所等との連携協力体制を構築する。 児童生徒1人ひとりの成長と、小・中学校9年間を見通した指導を推進するとともに、保護者や地域の人材を有効に活用した学習活動を推進する。	新型コロナウイルス感染症対策のため中学校3校の職場体験実施にとどまった。代替として、事業所訪問や職業講話を各中学校が工夫して実施。 職場見学は全ての小学校において実施。	B	新型コロナウイルス感染症対策のため中学校6校の職場体験実施にとどまった。代替として、事業所訪問や職業講話を各中学校が工夫して実施。 職場見学は全ての小学校において実施。	-	B	市内小・中学校において家庭・地域と連携しながらキャリア教育に取り組んだ	B	小中キャリア教育部会と連携し、平成28年度に作成した防府市キャリア教育実践事例集の活用を推進するとともに、児童生徒の発達段階に応じた職場体験学習等の実施を推奨する。	学校教育課	
	31	市役所での職場体験学習の機会の提供	職場体験学習(インターンシップ)による就業体験を通して学生の職業意識の向上を図るとともに、市政に対する理解を深めることを目的として実施する。 ワークフォーラム(職業講話)を中学校や高校で実施し、市役所の仕事内容や魅力、学生に身につけてほしい考え方などを伝える。	【インターンシップ】 大学・専門・高専(夏季:6校12人、春季:6校、8人) ※県インターンシップ推進協議会と連携して実施  【ワークフォーラム(職業講話)】 市役所の仕事内容や魅力、学生に身につけてほしい考え方などを伝える。 牟礼中学校1年生(15分×2回) 講師:人事課人事研修係	B	【職場体験学習】 牟礼中学校1年生3名(1日) 【インターンシップ】 大学・専門・高専(夏季:11校21人、春季:4校5人) ※県インターンシップ推進協議会と連携して実施  【職業講話】 市役所の仕事内容や魅力、学生に身につけてほしい考え方などを伝える。 桑山中学校(35分) 講師:人事課人事研修係	-	B	新たに中学生の職場体験学習を取り入れることができ、実際の公務員の仕事に触れる機会を作ることができた。	B	学校、協議会と連携し、学生の要望を事前に調査・把握したうえで、受入計画を作成する。 受入部署に制度の趣旨・メリットについて周知し、協力を依頼する。	人事課	
エ 人権学習の推進	32	人権学習市民セミナーの開催等の市民ぐるみでの積極的な人権学習の推進	市民、人権学習推進市民会議員、人権学習推進委員を対象として、さまざまな人権課題のテーマについて講師を招聘し、市民セミナーや講演会を行う。	市民セミナー(3回):参加者95人 講演会:参加者(190人)	B	市民セミナー(4回):参加者194人 講演会:参加者161人 市民会議総会:参加者164人	785	B	市民セミナー、講演会、市民会議総会とも予定通り開催することができた。	B	さまざまな人権課題について、バランスよくかつ、市民ニーズもふまえた講師選定を行い、さらなる周知拡大を図る。	生涯学習課	
	33	人権学習推進委員研修会等の開催による人権学習推進体制の充実	地域や団体、職場等で研修会を企画・運営し、人権意識の高揚と啓発活動を担う人権学習推進委員を対象に、情報交換、実践活動をもとにした研修会を行う。	人権学習推進委員研修会(1回):参加者23人	B	人権学習推進委員研修会(3回):参加者(延べ89人)	287	B	予定していた4回の研修会の内、1回はリモート開催となったが、3回は開催することができた。	B	研修内容の充実を図り、継続して実施する。	生涯学習課	
	34	人権学習指導員の派遣や人権学習教材の貸出等の人権学習への支援	地域や団体、職場等で実施される研修会への人権学習指導員の派遣や人権学習教材の充実・貸出を行う。	人権学習指導員の派遣:(41回) 人権学習教材の貸出:(97本)	B	人権学習指導員の派遣:(44回) 人権学習教材の貸出:(39本)	79	B	人権学習教材については、予定どおり充実を図ることができた。また人権学習指導員の派遣についても要請通りに実施することはできたが、よりいっそう需要を掘り起こす必要はある。	B	継続して企業への周知を図り、人権学習への支援の拡大を図る。	生涯学習課	
	35	ジェンダー平等に関する「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」等の推進	ジェンダー平等に関して、聞いて得するふるさと講座(出前講座)等の活用を推進する。			「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」 男女共同参画社会について、1メニュー 男女共同参画社会を含む人権全般について、4メニュー 講座実施回数:11回	-	B	申込者の要請どおり講座を実施することができた。	B	関係機関等への周知を図り、継続して実施する。	生涯学習課	



内容 施策の	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	3	課題			
カ 生涯スポーツの推進	40	ほうふスポーツフェスタ等の生涯にわたりスポーツに親しむ機会の提供(再掲)	誰もが生涯にわたり、それぞれの目的や状況に応じて、気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供を行う。 ほうふスポーツフェスタ、市内一周駅伝競走大会等			ほうふスポーツフェスタ2022(10月16日) 市内一周駅伝競走大会(1月8日) 各種大会・教室・講習会	1,200 231 参加費	B	いずれの事業も、前年度より参加者も増え、市民にスポーツに親しむ機会を提供することができた。	B	より多くの人が参加しやすい工夫をしながらか継続して実施する。	スポーツ振興課 (文化・スポーツ課)	
	41	トップアスリートを誘致したスポーツイベントの開催	トップアスリートを誘致した大会やイベントの開催 レノファ山口FCの防府市サンクスデーにおける試合観戦の支援			マラソンの川内優輝選手 中高生向け講演会実施し、およそ250名の参加者があった。 レノファ山口FCの防府市サンクスデーにおいて、観戦支援として、市内の親子を招待した。(ペアチケット50組100名)	791	B	トップアスリートやプロスポーツに触れ合う機会を提供した。	B	事業を継続し、様々なスポーツのトップアスリートと触れ合う機会を提供したい。	スポーツ振興課 (文化・スポーツ課)	
	42	高齢者や障害のある人がスポーツをする機会の拡大	スポーツ協会や指定管理者による高齢者が取り組みやすい定期教室等の開催 いきいきシルバーふれあいスポーツ大会			いきいきシルバーふれあいスポーツ大会について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		いきいきシルバーふれあいスポーツ大会について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	B	関係機関と連携し、継続して実施する。	高齢福祉課	
	42	障害のある人が取り組みやすいスポーツ体験会等の開催	障害のある人が取り組みやすいスポーツ体験会等の開催 障害者体育大会、風船バレーボール大会			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・防府市障害者体育大会(社協委託事業) ・風船バレーボール大会	-		防府市障害者体育大会、風船バレーボール大会について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	B	関係者に大会への参加を呼びかけるとともに、社会福祉協議会等の関係団体と連携し、効果的な事業実施に努める。	障害福祉課	
	43	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供 学校や地域、企業との連携による人材確保			新型コロナウイルス感染症の感染状況を加味し、広く一般ボランティアを募集するのではなく、日常から時間を共有する団体を対象にボランティアを実施した。	-	B	JMCシリーズ男子グレード1、女子グレード3となり、大会運営にも多数の人員が必要となったことで、多数のボランティアの参加があった。	B	引き続き、団体ボランティアに加え、一般ボランティアの募集を大会ホームページ等で行うことしたい。	スポーツ振興課 (文化・スポーツ課)	
44	公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援	公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援 貸館業務等			各種団体に公民館等を活動の場として提供した。	-	B	地域の要望に対して活動場所の提供を適切に行っている。	B	継続して実施する。	生涯学習課		

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	① 公民館の整備・充実
施策の方針	地域住民の学習ニーズに応えるため、社会教育主事等の配置により、地域課題に対応した学習機会の提供や地域情報の収集、学習情報の提供に努めると共に地域活動の拠点施設としての機能の充実に努める。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)			評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課	
								到達度	事業効果	効率性					
ア 公民館の整備・充実	45	公民館だより等による学習情報発信の充実	社会教育指導員等による学習機会の提供や地域情報の収集、学習情報の提供に努める。  公民館だよりの作成、ホームページによる情報発信等	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信	B	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信	-	B	3	3	公民館だよりやホームページにより、学習情報を発信することができている。	B	公民館職員が積極的に情報発信するよう促す。また、社会教育指導員等の研修会を行い、ホームページの内容充実や情報交換に努める。	生涯学習課	
	46	牟礼公民館の建替え等、公民館の計画的な整備・改修と適正な維持管理	公民館の老朽化に伴い、計画的な整備・改修を行い、適正な維持管理に努める。	小野公民館建設工事 各公民館の修繕を随時実施	B	新小野公民館の供用開始 各公民館の修繕を随時実施 牟礼公民館の建替事業に着手	50,920	B	3	3	公民館の建替えは概ね計画通りに事業を実施することができた。  向島公民館及び小野公民館を除く、全ての館が築後20年以上経過しており、全体的な改修計画が必要であるが、緊急性の高い箇所から改修等を行っているのが実情である。	B	小規模修繕や緊急性の高い箇所の改修を行い、施設の維持管理に努める。	生涯学習課	
	47	講座やサークル活動等、自治会や関係団体等との連携・協働による多様な学習の場の提供	自治会や関係団体等の活動を支援し、公民館における地区住民の多様な学習の場づくりに努める。  各種学級、教養講座等	各種学級 教養講座 サークル活動他 青少年協会の活動の支援 子ども会活動の支援	B	各種学級 教養講座 サークル活動他 青少年協会の活動の支援 子ども会活動の支援	5,824	B	3	3	概ね計画どおりに事業を実施することができた。  各公民館により関係団体等との連携にはばらつきがある。	B	公民館の活動について情報の共有化を図り、関係団体との連携を推進する。	生涯学習課	
	48	公民館職員のICT(情報通信技術)に関するスキルアップの機会の充実	公民館職員のICT(情報通信技術)に関する研修等に努める。				未実施	-				講師や各公民館職員の調整が出来ず、実施することができなかった。  担当職員の減数や、公民館での業務量の増加により、研修会等の時間が取れなくなってきた。	C	公民館職員のICTに関するスキルアップの機会をどのように確保するか、現状を踏まえて検討が必要である。	生涯学習課
	49	ICT(情報通信技術)の活用による行政相談や地域情報の発信、地域活動の支援	タブレット端末で公民館と市役所窓口をオンライン接続することにより、地域の困りごとの相談をはじめとする行政相談や補助、助成制度の申込、地域情報の発信、地域活動の支援に努める。				市役所37台、市内全公民館15台のタブレット端末を設置し、年間40件のオンライン相談対応	-	B	2	3	利用された方から、高評価をいただいている。  公民館側からの呼びかけによるオンライン相談の利用が大多数であり、本庁側の認識・周知が課題。	B	本庁職員側からオンライン相談できる案件を積極的に情報発信するよう促す。	地域振興課
50		高齢者等を対象にしたスマートフォン・タブレット端末講座の開催	高齢者等を対象にしたスマートフォン・タブレット端末講座を開催する。			ルルサス文化センター、各公民館で、スマートフォン・タブレット端末についての講座を実施	-	B	3	3	概ね計画どおりに講座を実施することができた。  講師(企業)の側の善意により事業費負担がなく講座が開催できている。今後の開催について、講師側の意向によるところがある。	B	引き続き市民のニーズに応じた講座の開催に努める。	生涯学習課	
						市内全公民館15館で各4回の高齢者向けスマホ教室を開催	2,590	A	4	4	高齢者の方々の要望が多く、募集開始後すぐに予約枠が埋まってしまいうほど盛況であった。満足度は高かった。  高齢者の要求するレベルにバラつきがあるので、調整が難しいこともある。	A	定員を超える受講希望があったことや、受講者のレベルにバラつきがあることから、前年度実施内容を基に、開催場所を増やしたり、相談時間を設けるなど1コマあたりの時間を長くするなど、受講希望者のニーズにあわせた内容に改善する。	デジタル推進課	
51		ルルサス防府での市民教養講座等の新設及び拡充	文化福祉会館の一部機能をルルサス防府へ移転し、市民教養講座などの新設や内容の充実による新たな魅力の創造に努める。			ルルサス文化センターにおいて、講座を増設・文化センター短期講座・市民教養講座	135	B	4	4	ルルサス文化センターにおいてスマートフォン講座等、短期講座のを増設した。  講座がマンネリ化している。新たな講座の開催にあたっては、市民のニーズを把握する必要がある。	A	短期講座の増設にあたっては、市民のニーズに応じた、魅力ある新しい講座を開催する必要がある。	生涯学習課	

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	② 図書館の充実
施策の方針	本市の特色を生かした資料の収集をはじめ、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備を図るとともに利用者サービスの質的向上を図る。市民との協働を推進し、他の図書館や教育文化施設・機関等との相互協力・連携を推進する。積極的な情報発信を図るとともに子どもの読書活動を推進する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度未実施状況	事業評価(3年度)	4年度未実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
図書館機能の充実	52	図書・視聴覚資料や雑誌・新聞等、図書館資料の質・量両面の充実	図書・視聴覚資料や雑誌・新聞の充実を図る。防府市関連の事項・人物等に関する資料、行政関係資料などの郷土(地域)資料の充実とともに、電子書籍の普及に伴い変化する資料提供サービスへの対応を図る。	図書館資料整備計画表による資料の充実 新刊図書13,136冊、雑誌303誌、新聞19紙購入 年間貸出者数(延べ125,702人)、貸出冊数(482,909冊)	B	図書館資料整備計画表による資料の充実 新刊図書10,882冊、雑誌303誌、新聞19紙購入 年間貸出者数(延べ138,034人)、貸出冊数(531,343冊)  10月1日から、防府市電子図書館を開設した。防府史料等の郷土資料は電子図書館から閲覧できるように移行した。蔵書冊数1,120冊(うち郷土資料165冊)	-	B	電子図書館の導入により、来館が困難な市内在住または通勤通学の利用者へ、読書機会の提供ができた。	B	郷土資料の収集を推進する。  電子図書館の資料の充実を図る。 電子図書館の利用の普及の方策を講ずる。  書庫の整理計画を立てる。  展示やイベントの質を充実させる。	教育総務課	
	53	レファレンス・サービス等の利用者サービスの充実	レファレンス・サービスの充実に努め、資料提供サービス・情報提供サービスの質的向上を図るとともに、Webサービスの充実に努める。 移動図書館車でのサービス向上に努めるとともに、地域文庫・貸出文庫の利用促進を図る。 障害者や高齢者へ配慮したサービスの推進に努める。	移動図書館車 6コース・36ステーションを2週間に1回運行。 また、「防府市緑花祭」、「みんな集まれ!はたらく車展」、「西浦まつり」「玉祖小学校」に出張した。	B	移動図書館車 6コース・37ステーションを2週間に1回運行。 また、「みんな集まれ!はたらく車展」「西浦まつり」「玉祖小学校」に出張した。	-	B	事故やトラブルが無いよう、車両の整備や安全確認を怠らないようにする。	B	利用が減少傾向にある小中学校へ、利用の働きかけをする。	教育総務課	
	54	防府市図書館協議会の設置等、図書館事業への市民参画の促進と活用	行事運営などで市民との協働を推進するとともに、防府市図書館協議会の設置により、図書館事業へ広く市民の声が反映されるよう努める。定期的に開催する行事・講習会等を通じて、ボランティアの養成・育成を図る。	図書館ボランティア養成講座の開催(2/3・10・17 参加者 延べ35人) ※新型コロナウイルスの拡大により、1回目、2回目はリモートで実施。4回目は中止。  防府図書館ボランティア連絡会議の開催(1/20 参加者16人)	B	図書館ボランティア養成講座の開催(2/2・9・16・23 参加者 延べ52人)  防府図書館ボランティア連絡会議の開催(1/26 参加者15人)	-	B	新規参加者が少ないため、ボランティア団体への加入にはつなげていない。	B	図書館ボランティアとの連携を密にする。	教育総務課	
	55	学校図書館等の教育文化施設との連携の促進	資料や情報を的確に提供するため、学校図書館(ほか)の図書館や施設・機関等との相互協力の推進を図る。	学校支援図書 年間貸出件数(延べ673件)、貸出冊数(4,239冊)、内予約数(33件634冊)  選書会の実施	B	学校支援図書 年間貸出件数(延べ733件)、貸出冊数(4,213冊)  選書会の実施	-	B	利用件数は増加した。	B	追加資料リストの作成及び配布、利用方法の周知、利用促進のためのPR活動を行う。随時学校支援図書を購入する。	教育総務課	

施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性	課題			
ア 図書館機能の充実	56	企画展示や集会・文化活動及びホームページ等による広報活動の推進	企画展示や集会・文化行事、図書館資料を活用する生涯学習グループの奨励・育成等の事業を拡充し、図書館の多角的な利用促進を図るとともに、ホームページの内容充実、各種報道メディア等の活用を通じ、積極的な情報発信に努める。長年郷土の歴史史料を翻刻してきた「防府史料」シリーズの刊行を継続するとともに、ホームページに掲載し、情報発信の充実を図る。	図書館施設・設備・資料の利用等支援(登録サークル数32団体) サークルの研修会等で図書館職員によるブックトークを行った。 (公財)防府市文化振興財団が管理運営するソラールとの連携事業として、スポーツ展「あつまれ！本の虫」を開催し、両館に虫の登場する本と昆虫標本、解説パネルを展示した。また、子ども読書フェスティバルに合わせソラール学芸員によるギャラリートーク(7/17 参加者16人)、および、関連講座「むしむしイマジジン！～想像してみよう虫のこと～」(7/22 午前・午後参加者31人)を実施した。  主にシニアを対象とした上映会「月いちキネマ」を毎月1回実施した。休憩中には、映画に関連する図書を紹介するブックトークも行った。5月・9月は中止。(10回/参加者 延べ 160人)  新規事業として、「大人のくらし塾」を企画。今年度は、前期・後期ともに「タブレット体験会」を実施した。(前期:9/29、10/7 参加者25人、後期:2/16、3/10 参加者23人)	A	9月末にホームページをリニューアルした。 1月からInstagramでの発信を開始した。 図書館施設・設備・資料の利用等支援(登録サークル数28団体) サークルの研修会等で図書館職員によるブックトーク等を行った。  【文化行事】 ・上映会「月いちキネマ」を毎月1回実施した。休憩中には、映画に関連する図書を紹介するブックトークも行った。8月は子ども向け、12月はバリアフリー上映(全12回 参加者 延べ 182人) ・「大人のくらし塾」を開催した。前期「年賀状に使える消しゴムはんこ作り」(11/10、11/24、参加者27人)、後期「スマホで写真編集してみよう」(2/10、2/11 参加者29人) ・「利用者懇談会」を実施し、図書館の運営状況報告や電子図書館の紹介をするとともに、より身近で利用しやすい図書館になるよう利用者の意見や提言を聞く機会を設けた。(12/1 参加者11人) ・直木賞作家の今村翔吾氏が企画した「今村翔吾まつり旅」に応募し、今村氏による講演会「歴史から物語ができるまで」をアスピラート音楽ホールで開催した。(6/8 参加者359人) ・県央連携都市圏域図書館利活用推進事業の一環で「図書館で学ぶナナシマチの歴史」に参加し、講演会「種田山頭火の句を味わう」(11/18 参加者20人)とスタンプラリー(10/8～11/18)を実施した。	-	B	ホームページのリニューアルにより、スマートフォンやタブレット端末でも見やすく操作しやすくなった。 Instagramを開始することで、広報の機会を増やし、より手軽に図書館情報を届けられるようになった。 多様な文化行事を実施し、いずれも概ね好評だった。	B	ホームページの更新、Instagramでの情報発信を適時行う。 引き続き、サークル活動の支援に努める。 出張サービスの広報と積極的な受け入れに努める。	教育総務課	
	57	第3次防府市子ども読書活動推進計画に基づき、子ども読書活動の推進	市の関係各課、小・中学校及び各関係機関との連携を図り、子どもの読書活動に係る各種事業を展開する。	児童サービスの充実 ・子ども読書フェスティバルで、林木林さんトークイベントをオンラインで実施。おはなし会やワークショップも行った。 ・マナーアップキャンペーンの実施(7/7～8/27 達成68人、参加者554人) ・読書感想文教室の開催(7/24・25 参加者38人) ・調べる学習にチャレンジ！(7/31 参加者9人) ・図書館を使った調べる学習コンクールを開催(小学生21作品、中学生6作品) ・ピリオパトルの開催 1回目:小学生大会(11/13 参加者34人) 2回目:小学生から大人まで(3/21 参加者23人) ・毎月第3日曜日(家庭の日)にさんさんおはなし会を開催。5、9、2月は中止。(8回/参加者 平均 大人8人・子ども6人) ・子ども図書館員の実施(7/26、8/2 参加者17人) ・クリスマスおはなし会の開催(12/19 参加者22人) ・防府図書館サークルの会員募集チラシの作成・配布を行った。	【児童サービスの充実】 ・防府市子ども読書フェスティバルで、追悼座談会「児童文学作家・那須正幹さんを偲んで」を実施。おはなし会やワークショップ、那須正幹作品のブックトーク、関連展示も行った。 ・チャレンジ！調べる学習の実施(7/10、8/6 参加者43人) ・図書館を使った調べる学習コンクールの開催(小学生27作品、中学生9作品) ・読書感想文教室の開催(7/24・31 参加者28人) ・子ども図書館員の実施(7/25、8/1 参加者31人) ・マナーアップキャンペーンの実施(7/6～8/31 達成67人、参加者550人) ・ピリオパトルの開催 1回目:小学生から大人まで(11/3 参加者20人) 2回目:小学生から大人まで(3/19 参加者33人) ・毎月第3日曜日(家庭の日)にさんさんおはなし会を開催(全11回 参加者 平均 大人10人・子ども8人) ・クリスマスおはなし会の開催(12/18 参加者22人) ・「読書感想文のヒント」(公財)防府市文化振興財団が管理運営するソラールとの連携事業として、両館に、科学分野の課題図書と、学芸員と司書それぞれの視点からの感想文の着眼点等をパネルにして展示。(7/6～9/5) ・防府図書館サークルの会員募集チラシの作成・配布	C	児童サービスは、参加型のイベントを多く企画し、年々内容を充実させている。	B	多様な事業を実施することができるが、子ども読書活動の推進のため、関係各課・各関係機関と連携し、各種事業を継続的に実施していく必要がある。	B	子ども読書フェスティバルでは、よしながこうたく氏による読み聞かせとライブイベント、展示など実施する。	教育総務課	

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	③ 博物館等の充実
施策の方針	防府市の科学教育普及活動の拠点施設として、防府市青少年科学館(ソラール)の利用促進のため、展示物等の施設設備の充実を図り、科学教室の開催、小・中学校への理科教育支援、企画展の開催などを行い、創造性豊かな青少年の育成と市民の科学技術に関する知識の普及及び啓発を図る。 防府市文化財郷土資料館は、講座や体験学習の充実、文化財情報の発信に努める。また、文化財の保護・保存、継承、有効活用を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価
※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 青少年科学館・文化財郷土資料館の充実	58	幅広い分野での充実した科学教室の開催	防府市の科学教育普及活動の拠点施設として、科学教室の開催、小・中学校への理科教育支援を行い、科学技術に関する知識の普及及び啓発を図る。 また、利用促進のため、施設設備品の更新充実に努める。 「工作教室」「科学教室」「サイエンスアカデミー」等	天体観察教室等の科学教室を毎回テーマを変える等、さまざまな分野の教室を実施 ・年間利用者数(延べ29,752人) ・ソラール出前講座(26回)	B	天体観察教室等の科学教室を毎回テーマを変える等、さまざまな分野の教室を実施 ・年間利用者数(延べ32,530人) ・ソラール出前講座(42回)	-	B	到達度 3 事業効果 3 効率性 3	科学教室やスポーツ展、サイエンスショーや出前講座等を実施し、来館者は増加した。 多様な出前講座の依頼に対応するため、指導員の育成及びスキルアップが必須である。	B	必要な知識・技術をもった指導員の育成及びスキルアップの支援による事業の充実を図る。	生涯学習課
	59	魅力ある企画展の開催	防府市青少年科学館の利用を促進するため、企画展(特別事業等)を開催する。	青少年科学館 ・特別事業(9回)	B	青少年科学館 ・特別事業(4回)	-	B	到達度 3 事業効果 3 効率性 3	コロナ対策をしっかりと行ったうえで、特別展や企画展を開催し、来館者は増加した。 企画展の種類によって入館者数に差がある。	B	より魅力ある企画展を実施する。	生涯学習課
	60	ホームページ等を活用した文化財情報の発信	常設展・企画展・巡回展を開催する。開催にあたっては、市広報やホームページ、ポスター、リーフレット等により広報を行う。	保管文化財整理・移動、コロナ対応等もあり、規模を縮小し企画展を1回開催。 重源上人生誕900年記念関連企画 ・令和3年11月～令和4年1月まで、ドライブスタンプラリー「ぐるっとまわって重源ワオ！」をイベント推進協議会の一員として開催。 ・令和3年8月～令和4年4月まで「重源生誕900年記念プチ展示」を開催中。 文化財郷土資料館展示観覧者数(435人)	C	市広報やホームページに掲載するとともに、市内の小・中学校等へポスターやリーフレット等で広報し、常設展・企画展等を開催した。 ・4/23～10/2まで 企画展「源平から鎌倉へ～そのとき防府は～」 ・8/2～9/11まで ソラール出張展示 ・10/8～ 常設展(リニューアル) 令和4年度文化財郷土資料館展示観覧者数(1,720人)	466	B	到達度 3 事業効果 4 効率性 2	大河ドラマとタイアップした企画展やソラールと連携した企画で収蔵品を初公開したことや、常設展の展示替えを実施したこと及び、学校へリーフレットを配付したり、ソラールのポスター等への広報により、来館者は大幅に増加した。 広報に関して、来館者に対する館内展示の情報提供やYouTube等を活用した文化財関連の動画配信等、新たなコンテンツも検討していく必要がある。	A	新たなコンテンツに関しては、ソラールをはじめ多分野にわたる専門家と連携して地域情報に関する、わかりやすく、知って楽しい展示メニューを作成する。それらを利用して、ホームページ等で防府の魅力の周知を図る。 アンケート結果や利用者の声を反映し、ニーズを捉えた情報発信に努める。	文化振興課(文化財課)
	61	文化財を活用した講座、体験学習の充実	文化財郷土資料館での歴史や考古学、文化財に関する講座を開催する。 市民発掘体験等	未実施	D	・5/3～5/8(GW) 文化財郷土資料館で、鎌倉時代衣装体験イベントを開催(88人) ・7/31 夏休み親子企画「ほうふ新発見!! 鎌倉時代のお宝探検!!」(12人) ・6/14 新田小学校でオンライン授業(6年生1クラス) ・10/17 華浦小学校でオンライン授業(6年生全員3クラス) ・12/11 地域散策「桑山お宝さがし」 ・令和4年度 小学校校外学習(5回) ・令和4年度 出前講座等の開催(15回)	-	B	到達度 3 事業効果 3 効率性 3	実際に体験することをねらった内容で開催した資料館でのイベント、現地へ出向いての体験企画等はいずれも好評だった。 資料館での企画においては、体験できるコンテンツを一層充実させていく必要がある。	B	文化財というテーマで身近なものや場所にフォーカスした様々な体験イベント等を企画し、子ども向けの企画を一層充実させる。	文化振興課(文化財課)

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	④ 文化施設の充実
施策の方針	地域交流センターの施設整備の充実と活用の促進を図る。 また、英雲荘の保存・適切な管理運営し、有効活用を図り、山頭火ふるさと館は、俳人種田山頭火を顕彰し、郷土の誇りとして継承するため整備を行う。 防府市公会堂・防府市文化福祉会館は、市民が文化活動や学習活動の拠点施設として、長年市民に親しまれている重要な施設だが、老朽化が進んでいるため施設の今後について、建物の建て替えを含めた将来構想を市全体のビジョンの中で検討する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価
※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 文化施設の充実	62	公会堂、地域交流センター(アスピラート)の整備充実と活用の促進	市の文化・芸術を推進する施設として、芸術鑑賞や発表機会の提供の場として、利用促進を図るとともに、施設の適正な維持管理を行う。	地域交流センター利用者数(58,429人)	B	地域交流センター利用者数(74,098人) 公会堂利用者数(36,939人)	150,969	B	3	防府市文化振興財団に委託することで、施設の設置目的に沿った特徴を活かした管理ができた。	B	計画的な施設整備に努める。	文化振興課(文化・スポーツ課)
	63	萩往還三田尻御茶屋旧構内(英雲荘)の有効活用	英雲荘の文化・観光施設としての魅力を向上させるため、適切な管理運営をする。 夜間特別公開等	庭園工事完了及び英雲荘一般公開10周年を記念した観月会をオンラインで動画配信した。 11月に夜間一般公開(499人)を実施。 入館者数(2,765人)	B	9/10・10/7～10/10・11/3に「三度の月見イベント」と題して、昼、夜ならではの企画を行うとともに夜間一般公開を実施(3回の来館者数、計439人)。 令和4年度英雲荘入館者数(2,563人)	570	B	3	収穫祭としての月見イベントを江戸時代の風習に因む形で初開催して好評を博した。また、昨年度から引き続き行った夜間ライトアップも大変好評であった。	A	観光分野のノウハウも活用してイベントを充実させ、英雲荘に興味を持つ個人や団体に加え、学校等とも連携し活用を推進する。	文化振興課(文化財課)
	64	企画展の開催等、山頭火ふるさと館の活用の促進	ふるさと自然や歴史を背景とした山頭火の世界にふれ親しむ機会や場として、山頭火ふるさと館の活用を促進する。	山頭火ふるさと館入館者数(21,163人)	B	山頭火ふるさと館入館者数(21,365人)	29,600	B	3	山頭火ふるさと館を活用することで、山頭火の世界にふれ親しむ機会を提供できた。 入館者増加への取り組みが必要である。	B	入館者増加につながる企画展の開催や関係団体との連携に取り組む。	文化振興課(文化・スポーツ課)



基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	⑤ 生涯スポーツ施設の充実
施策の方針	スポーツセンター体育館(ソルトアリーナ防府)を中心として、誰もがスポーツを安全で気軽に行える環境整備を行うほか、スポーツイベントの開催や健康づくりメニューの提供など、スポーツを通じた交流の拡大や健康増進を推進する。また、地域でのスポーツ振興や世代間交流、コミュニティ活動の場として、引き続き小・中学校体育施設等の地域開放を進め、身近な生涯学習の場の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の	連番	主な取組	事業説明	3年度未実施状況	事業評価(3年度)	4年度未実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 生涯 スポ ーツ 施設 の 充実	65	スポーツニーズに対応したイベント等の開催	ソルトアリーナ防府を中心とするスポーツ施設の適正な管理運営に努め活用の促進を図るとともに、多様化するスポーツニーズに対応したスポーツイベントや健康づくりメニュー等の提供を行い、スポーツに親しむ機会の充実を図る。 防府読売マラソン大会等	防府読売マラソン大会 市スポーツ協会や指定管理者等による各種教室、講習会、大会、スポーツイベント、及び有名選手等による教室(陸上競技等) 市スポーツ協会による合宿誘致(陸上長距離)	B	防府読売マラソン大会 市スポーツ協会や指定管理者等による各種教室、講習会、大会、スポーツイベント、及び有名選手等による教室(陸上競技等) 市スポーツ協会による合宿誘致(陸上長距離)	36,500	B	3	JMCシリーズ男子グレード1、女子グレード3となり、有力選手が多数参加したが、一般ランナーの参加数が少なかった。	B	引き続き、事業を継続する。	スポーツ振興課 (文化・スポーツ課)
	66	小・中学校体育施設等の地域開放の推進	スポーツ振興や地域のコミュニティ、世代間の交流の場を提供するため、小・中学校の施設を開放するとともに、幼稚園や保育園の園内開放を推進する。 体育施設の開放、園庭開放(保育園)等	小学校16校、中学校1校で体育施設の開放を実施	B	小学校16校、中学校1校で体育施設の開放事業を実施	890	B	3	防府市における社会体育及び社会教育の普及、振興のため、学校教育に支障のない範囲で、学校施設を市民の利用に供することができた。	B	今後もスポーツの振興や交流の場を提供するため、学校施設開放事業を推進していく。	教育総務課
			園庭開放(保育園・幼保連携型認定こども園)22施設	園庭開放(保育園・幼保連携型認定こども園)22施設		園庭開放(保育園・幼保連携型認定こども園)22施設	0	B	3	地域の未就園児と保護者同士の交流が図れた。	B	園庭開放は、子育てに関する「相談」「情報提供」「交流」の場であり、継続して実施する。	子育て支援課

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	⑥ その他の生涯学習関連施設の有効活用
施策の方針	学習機会の提供の場としてより一層の活用を図るため、さまざまな生涯学習関連施設の適正な管理運営を図る。また、地域でのコミュニティ活動の場として小・中学校施設の地域開放の推進を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度未実施状況	事業評価(3年度)	4年度未実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課		
								到達度	効率性						
ア その他の生涯学習関連施設の 有効活用と運営の充実	67	講座の開催等、施設 の特性を生かした多様な学習機 会の提供	福祉センター、老人憩の家、地域協働支 援センター、防府地域職業訓練セン ター、三田尻塩田記念産業公園、中高年 齢労働者福祉センター(サンライフ防府) 等の生涯学習関連施設において、それ ぞれの目的に応じた多様な学習機会の 提供を行うとともに、活用の促進に努め る。 また、学習機会の提供の場としてより一層 の活用を図るため、サービスの向上や施 設の適正な維持管理に努める。		B	市民活動の支援(まちづくり講座の開催、 市民活動に関する情報提供、団体運営 相談、市民活動団体の活動と市民との マッチング)	16	B	4	新型コロナウイルス感染症の影響が心配 されたが、ほぼ計画どおり実施することが できた。	B	新型コロナウイルス感染症により、オンラ インやSNSの活用が増えた。今後そのよ うなスキルを市民活動団体が活用できるよ う支援を行う。	地域振興課		
			防府地域職業訓練センター ・各種職業訓練及び短期パソコン講座 サンライフ防府 ・主に中高年を対象とした教養講座	防府地域職業訓練センター ・各種職業訓練及び短期パソコン講座 サンライフ防府 ・主に中高年を対象とした教養講座		B		3	民間の能力を活用するため、指定管理者 制度を導入し、勤労者、求職者等の職業 能力の開発及び福祉向上を促進してい る。	B				講座内容の充実と、効果的なPRを図る。	商工振興課
			【地域協働支援センター】 市民活動の支援(まちづくり講座の開催、 市民活動に関する情報提供、団体運営 相談、市民活動団体の活動と市民との マッチング)	【防府地域職業訓練センター】 各種職業訓練や講座等		B		3	新型コロナウイルス感染症対策をしながら、教養 講座を開催した。						
68	施設の適正な維持 管理と活用の促進			・各福祉センターで教養講座を開催(耐 震改修工事の宮市福祉センターは除く) ・各福祉センターだより(年3回)	4,071	B	3	講師の高齢化。	B						
			市内14施設の老人憩の家について、地 元団体である老人憩の家運営委員会を 指定管理者として、各種サークル活動や 教養講座を開催した。	7,092		B	3	各地区における老人クラブや地域活動の 拠点として利用されている。		B			毎年実施している利用者アンケートの 内容を踏まえながら、今後も各地区の高 齢者に利用して頂けるよう事業を推進す る。	高齢福祉課	
						3	3	年々利用者の減少がみられること、また、 管理者の後継がいらないことなど、今後の 管理・運営面が課題である。							

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(4) 学習相談体制の充実
施策の展開	① 生涯学習に関するあらゆる相談への対応
施策の方針	高度化・多様化した学習ニーズに対応するため、生涯学習専門員による生涯学習相談コーナーの充実を図る。また、公民館、図書館、青少年科学館といった社会教育施設に専門職員を配置し、市民の学習環境の充実を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 生涯学習相談コーナーの充実	69	生涯学習に関する資料の充実	ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」をはじめとする生涯学習情報の収集・提供  生涯学習や青少年、家庭教育等に関する図書・DVD等の貸し出し(学ぼうや文庫の運用)	生涯学習課ホームページまなぼら発行(4回) まなぼうやだより発行(3回)	B	情報紙を発行・ホームページに掲載 まなぼら発行4回(4回) まなぼうやだより発行(3回)  図書・DVD等について、ホームページに貸出一覧を掲載	154	B	3	関係機関と定期的に情報交換を行いながら、例年どおり実施した。	B	関係機関と連携し、より充実した内容の情報紙を目指す。	生涯学習課
	70	生涯学習専門員の相談対応能力向上のための研修の実施	生涯学習相談コーナーに生涯学習専門員を配置することにより、市民からの相談にきめ細かく対応する。また、各種研修会へ参加し、相談対応能力の向上に努める。  ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」の利用等の学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供	関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加 ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」登録者をコーディネートし、講座を開催:154件 学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供等:829件	B	関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加 ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」登録者をコーディネートし、講座を開催:194件 学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供等:821件	383	B	3	関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加することができた。 市民の方からの相談に適宜対応することができた。  市民からの学習相談にきめ細かく対応するために、職員の資質向上のための研修への参加が必要である。 また、コーディネートのために情報収集に努める必要がある。	B	生涯学習専門員や職員が、学習相談に必要な研修へ参加する。 また、情報交換の場に積極的に参加する。	生涯学習課

施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	事業効果	課題			
イ 社会教育施設職員の資質向上	71	社会教育に関わる専門的職員(社会教育主事・公民館主事・社会教育指導員・司書・学芸員)の適正な配置  社会教育施設における学習相談体制の充実	専門的知識を要する施設(生涯学習課・公民館・文化財・図書館及びアスピラート・ソラール)については、専門職員の適正な配置に努める。	公民館主事(15人) 社会教育指導員(16人) 派遣社会教育主事(2人) 社会教育主事(2人)を配置	B	公民館主事(15人) 社会教育指導員(16人) 派遣社会教育主事(2人) 社会教育主事(2人) 学芸員(3人)	-	B	3	各施設に専門職員を配置することで、講座内容の充実や他の機関との円滑な連携に繋がっている。	B	専門職員の確保及び適正な配置に努める。	生涯学習課
				司書(16人)を配置		司書(17人)を配置		B	3	専門職員の確保が困難である			
				文化財専門員(4人) 学芸員(1人)		文化財専門員(4人) 学芸員(1人) 資料館案内員(1人)		B	3	司書14人以上を配置する条件を満たしている。			
				学芸員(7人)を配置		学芸員(5人)を配置(アスピラート・三友サルビアホール)		B	3	専門職員の適切な配置が必要である。			
	72	専門的職員への研修機会の充実	最新情報の収集やスキルアップのため、様々な研修に参加する。  公民館職員研修等 司書 館内・外部研修等 文化財保存活用地域計画等連絡協議会への参加等	社会教育主事・公民館主事・社会教育指導員 ・西部地区公民館職員研修会	B	西部地区公民館職員研修会に参加	-	B	3	概ね計画どおりに研修会を実施することができた。	B	継続して実施する。	生涯学習課
				司書ほか 館内研修(7回)、外部研修参加(9回) 新型コロナウイルス感染拡大のため、研修会が減った。県外への出張を伴う研修会は欠席した。 昨年度に引き続き、Web研修会に積極的に参加した。		司書ほか 館内研修(11回)、外部研修参加(10回) 昨年度に引き続き、Web研修会に積極的に参加		B	3	専門知識習得のため研修の機会の確保が必要である。			
				文化庁主催Web研修1講座参加		・11/18 山口県史跡整備市町協議会主催の研修 ・2/8、2/9 文化庁主催Web研修に参加		B	3	電子図書館の操作研修を全職員に実施し、電子図書館の案内サービスの向上に努めた。			
								B	3	研修成果の業務への反映と、他の職員への普及により、館全体のサービス向上に努める必要がある。			
								B	3	研修成果を、館全体のサービス向上に活かす工夫をする。			
								B	3	オンライン等での文化財専門員研修会に参加し、市民ニーズに応えられるよう専門員の資質向上に努めていく。			
								B	3	最新の情報の収集やスキルアップ等、希望していた研修に参加し、業務に活かせる専門的知識が習得できた。			
								B	3	個人の知識、技術の更なる向上を図るため、研修などで専門知識を習得していく必要がある。			

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(5) 産学公民の教育ネットワークの強化
施策の展開	① 多様な人々・機関の参加による教育ネットワークづくりの推進
施策の方針	生涯学習を推進していくため、防府市生涯学習推進協議会の機能を強化し、行政、市民、民間団体、企業、大学等との連携を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 防府市生涯学習推進協議会の運営の充実	73	生涯学習関連事業の評価機能の強化	防府市生涯学習推進協議会において生涯学習推進計画の進捗状況の把握と評価を行い、次年度に向けての見直しや改善を行う。	防府市生涯学習推進協議会を開催 ・令和2年度事業報告 ・令和3年度事業計画の審議 ・第3次防府市生涯学習推進計画案の報告等	B	防府市生涯学習推進協議会を開催 開催日:令和4年5月31日(火) 内容 ・第2次防府市生涯学習推進計画 令和3年度事業の実施状況について ・第3次防府市生涯学習推進計画について 会議での意見を踏まえ、事業実施状況調査票を変更した。 ①項目の追加(事業費) ②評価基準の明確化(到達度、事業効果、効率性の観点から定量評価)	28	B	3	計画どおりに会議を実施し、委員の御意見を踏まえ、事業実施状況調査における項目の追加(事業費)や評価基準の明確化を図った。	B	継続して実施する。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
イ 市民活動連携強化センター	74	ボランティア協働情報紙「まなぼら」の充実	ボランティア、協働について同様の取り組みをしている関係機関(市民活動支援センター、社会福祉協議会、生涯学習課)が連携して、情報紙の作成や配布を行い、より広く市民に情報発信を行う。また、定期的に情報交換を行うことで、情報紙の充実を図る。	情報紙編集のための企画・調整会議(12回) まなぼら発行4回(6月・9月・12月・3月)各月2,600部	B	情報紙編集のための企画・調整会議(12回) まなぼら発行4回(6月・9月・12月・3月)各月2,600部	154	B	3	定期的に情報交換を行いながら、紙面の充実に努め、例年どおり実施した。	B	3機関が協働で作成し、情報交換を行うことで、共通のテーマについてお互いの特徴を出しながら、より充実した内容の情報紙を目指す。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
イ 市民活動連携強化センター	75	市民活動団体相互のネットワークの構築	市民活動団体の活動の場を提供し、市民活動に関する情報の提供及び相談業務を行う。広く市民に市民活動を啓発するとともに、市民活動団体相互のネットワーク化を図る。	「交流セミナー」の開催、「ほうふ市民活動フェスタ2021」の開催(団体交流会)、人材・団体養成講座等の開催 登録団体の活動紹介、催し物・イベント情報の提供、助成金情報の提供など(HP、市広報、市民活動支援センター情報BOX等)	B	「交流セミナー」の開催、「ほうふ市民活動フェスタ2022」の開催(団体交流会)、人材・団体養成講座等の開催 登録団体の活動紹介、催し物・イベント情報の提供、助成金情報の提供など(HP、市広報、市民活動支援センター情報BOX等)	490	B	4	「ほうふ市民活動団体フェスタ2022」は、「まちかどフェスタ」「県民活動フェスタ」と同日開催することで、高校生と市民活動団体とのマッチングがとても良好な波及効果を生んでいる。 市民活動団体の活動と地域課題を結びつけ、多様なネットワークの構築と人材発掘が求められる。	B	市民活動への理解・関心を高めるため、地域活動を行っている団体の活動状況やニュースの調査、情報発信及び必要な支援を行う。市民活動団体の支援を通じて、多種多様な立場の人や団体をつないでいく。	地域振興課
								到達度	4				
								事業効果	4				
								効率性	4				



施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								課題	到達度	事業効果			
ウ 大学、企業等との連携強化	79	共同研究事業の実施等、地域・大学・企業等がつながる仕組みづくりの支援	「学」と「公」の相互連携を通じて、様々な地域課題の解決を図り、もって地域の活性化を達成するために、双方が持つ諸財産を有効に活用できるよう連携を図る。 「家庭の日」親子ふれあいイベント、山口県立大学サテライトカレッジの開催等 山口県立大学との共同研究等	山口短期大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントを開催した。	B	山口短期大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントを防府市文化福祉会館及びルルサス文化センターで開催した。(6月、7月、10月、11月、1月、2月)	96	B		新型コロナウイルス感染症感染防止対策を行いながら、概ね計画どおりに事業を実施することができた。	B	大学と市の双方がもつ諸財産が有効に活用できるよう、引き続き協議を重ね、連携を行っていく。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								3	市民の方のニーズに合わせた内容とするため、アンケートの結果の整理と、状況に応じた内容の見直しが必要である。				
				山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び英雲荘で開催 参加者数(延べ24人)	B	山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び塩田記念産業公園で開催 参加者数(延べ27人)	71	B		山口県立大学と地域をつなぐ講座となり、景観という観点において地元への活性化にも寄与している。	B	山口県立大学サテライトカレッジを継続して開催する。	都市計画課
到達度	3												
事業効果	3												
				・令和4年度共同研究テーマの検討 大学から提案された2件の研究テーマについて検討を行ったが、市の現状では実施が困難であったため、4年度の共同研究は実施しないこととした。 ・防府市サテライトルームの設置		・防府市サテライトルームの設置	-	C		新型コロナウイルス感染症の影響等により、取り組みが難しい状況であった。	B	大学と市の双方がもつ諸財産が有効に活用できるよう、引き続き連携した取り組みを行っていく。	政策推進課
到達度	2												
事業効果	2												
									2	共同研究による課題解決が促進されるよう、改めて大学と市のニーズを整理し直す必要がある。			
	80	企業等に関する出前講座や『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』のメニューの充実及び活用の促進	多様な分野の学習メニューとして、民間事業者や民間企業との連携による講座を企画・実施する。			「指導者バンク」企業登録数 9件 講座実施数: 11件(セミナーを含む)	-	B		企業ごとに複数のメニューがあり、内容も充実している。毎年申込があるなど、好評である。	B	登録企業の新規開拓のため、関係機関と情報を共有するなど、引き続き情報収集を行っていく。	生涯学習課
								3					
								3	登録者が固定化しているため、新規登録の開拓が必要である。				
	81	防府地域職業訓練センター等における各種職業訓練や講座の実施	防府地域職業訓練センターと連携し、各種職業訓練や講座を実施する。			防府地域職業訓練センターパソコン講座 〔種目〕 ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等	-	B		民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入し、勤労者、求職者等の職業能力の開発及び向上を促進している。	B	講座内容の充実と、効果的なPRを図る。	商工振興課
								3					
								3	講座内容の充実と効果的なPRが求められる。				
									4				

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(1) 生涯学習を支える人材の育成
施策の展開	① 生涯学習を支える人材育成の推進
施策の方針	教育・福祉・スポーツ・環境など各分野の知識や技術を習得するための研修を継続して開催し、ボランティアの育成機会の充実を図る。 また、生涯学習指導者の指導力を高める研修の場を継続して提供し、育成機会の充実を図るとともに、情報交換や交流の場の設定により、人材育成に努める。

【評価】  
評価項目の合計点数をもとに記入  
A～Dで評価  
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】  
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】  
A. 拡充を図る  
B. 現行のまま推進する  
C. 事業の改善が必要  
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容 施策 の	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)			評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	事業効果	効率性				
ア ボラン ティア 育 成 機 会 の 充 実	82	生涯学習ボラン ティア養成講座の 充実	子どもに関わるボランティアの養成を目的 に、毎年開催している生涯学習ボラン ティア養成講座の内容の充実を図る。	放課後子ども教室等の現場で簡単に活 用できることを目的として、身近な材料を 使った工作や簡単なレクリエーションを内 容とした講座を実施。(参加者12人)	B	放課後子ども教室等、子どもに関わるボラ ンティア活動の場で活用できることを目的 として、ニュースポーツや科学実験を内容 とした講座を実施。(参加者31人)	9	B	参加者のニーズに沿った講座を実施する ことができ、大変好評であった。	B	指導者バンクの活用、他課との連携等、 実施内容の充実を図るとともに、ホーム ページや市広報などを通じて積極的に情 報発信を行う。	生涯学習課		
								到達度					3	
								事業効果					4	
	83	防府読売マラソン 大会等でのボラン ティア体験機会の 提供等、スポーツ ボランティアに関 する情報の提供(再 掲)	誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気 軽にスポーツに取り組み、実践できる生 涯スポーツ社会の実現を目指し、スポ ーツボランティアの育成に努める。	ボランティア活動に関する情報提供やス ポーツボランティアリーダー養成講習会 等への参加啓発を十分に行うことがで きなかった。	C	ボランティア活動に関する情報提供やス ポーツボランティアリーダー養成講習会 等への参加啓発を行った。	-	B	コロナ対策のため、防府読売マラソンの 一般ボランティアについては募集を行わ なかった。	B	全国有数のマラソン大会として、万全の 運営を実施するには、ボランティアの参加 が不可欠であるため、ボランティアやリ ーダーの参加、養成を実施に向け、PR周 知を図っていく。	スポーツ振興課 (文化・スポーツ 課)		
								到達度					2	
								事業効果					3	
	84	森林ボランティア 等の環境ボラン ティア活動の促進	水源となる佐波川上流の森林整備が持 続的に進められ、健全な状態に保たれる ように森林ボランティア活動による森林整 備及び環境保全への意識向上を図る。 佐波川流域森林整備事業、森林整備事 業・林業体験学習等	佐波川流域森林整備事業(3回) 森林整備事業・林業体験学習 ※コロナウイルスの影響により一般ボラン ティア参加なし	B	佐波川流域森林整備事業(3回) 森林整備事業・林業体験学習 ※コロナウイルスの影響により一般ボラン ティア参加なし	300	B	コロナウイルスの影響もあり、一般参加の 受け入れができていない状況である。 一般ボランティアの受け入れ再開につ いて、関係各所と協議をすすめていく必要 がある。	B	市内ボランティアや山口県、森林組合の 協力を得て、内容の見直しや充実を図 り、引き続き森林ボランティア活動への参 加を呼びかけていく。	農林漁港整備課		
								到達度					3	
								事業効果					3	
	85	手話や点訳奉仕 員、要約記者 等、障害のある人 の社会参加を支援 するボランティアの 育成	障害者の日常を支援するための意思疎 通支援者(手話、要約筆記、点訳奉仕 員、音声訳ボランティア)を養成すると ともに、障害者施設でのボランティア体験や ボランティアの集いを開催し、ボラン ティアの育成に努める。	手話奉仕員養成講座(20人) 要約筆記養成講座(隔年開催のため 未実施) 点訳奉仕員養成講座(5人)	B	手話奉仕員養成講座(20人) 要約筆記養成講座(2人) 点訳奉仕員養成講座(4人)	1,380	B	市広報等に各講座の募集記事を掲載し PRを行い、予定どおり講座を開催する ことができた。 受講者増加に向けた取組が必要である。	B	養成講座の受講者が増加するよう、市広 報等を通じてPR活動に努める。	障害福祉課口		
								到達度					3	
								事業効果					3	
								効率性	3					



施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								課題					
イ 生涯学習指導者の育成機会の充実	86	『ほうふ幸せます人材バンク』指導者バンク』登録者の研修の充実	指導力を高める研修の場の設定、講師、指導者、生涯学習ボランティア等の多様な人材間の情報交換・交流の場の設定などのため、研修会を開催する。	ほうふ幸せます人材バンク登録者研修会について、グループ協議や交流・情報交換を主とした内容とし、令和4年1月26日に開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、急遽、中止とした。	B	人材バンク研修会を開催。活動目的の整理を行うとともに今後どうしていきたいかというのを考える機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和5年2月1日(水) 内容 活動紹介、講演、情報交換等 参加者数 28人(うち指導者バンク25人)	7	B	概ね計画どおりに実施することができた。参加者のニーズに沿った内容とすることができ、好評であった。	B	継続して実施していくとともに、より多くの方に参加してもらえよう、周知の仕方や内容について検討する。	生涯学習課	
								到達度	3				
									事業効果	3	より多くの方に参加してもらうため、周知の仕方や内容について検討が必要である。		
								効率性	3				
	87	スポーツ推進委員等の指導者の研修の充実	スポーツ推進委員連絡協議会の開催を通じ、各委員の連携を密にするとともに、各種研修会や講習会へ参加することで資質の向上を図る。 市民民力テスト・ニューススポーツ体験会等の運営	防府市スポーツ推進委員連絡協議会の開催(計7回) 市民ニューススポーツ大会の運営(計1回) 県スポーツ推進委員連絡協議会への参加(計2回) 研修会への参加(2回) 放課後子ども教室等の実施(4回)	B	防府市スポーツ推進委員連絡協議会の開催(計8回) 市民ニューススポーツ大会(モルック大会)の運営(計1回) 県・県央スポーツ推進委員連絡協議会への参加(計3回) 研修会への参加(計4回) 放課後子ども教室等の実施(計4回)	245	B	市民ニューススポーツ大会では新たな種目としてモルックを取り入れ、集客に成功し市民への認知を上げることができた。コロナで縮小されていた研修会も徐々に復活	B	ニューススポーツ大会の複数回開催、外部講師を活用した講習会の実施、放課後子ども教室の積極的な参加を促し各個人の資質の向上を期待する。 各委員の意見交換を活発化し、他地区の状況を参考にすることで相乗効果を生み出す。	スポーツ振興課(文化・スポーツ課)	
								到達度	3				
								事業効果	3	研修会の出席率の低下や連絡協議会での自主的な発言も少ない委員もいるため、ここ数年の課題である地区による委員の差異については令和4年度も見られた。			
								効率性	3				
	88	県主催の「地域協育ネット」コーディネーター養成講座の積極的な活用	学校や支援組織・団体との連絡調整を担い、キーパーソンとして果たす役割が重要なコーディネーターを育成するため、県が主催するコーディネーター養成講座を活用する。	県主催「地域協育ネット」コーディネーター養成講座(5人) 県主催「地域協育ネット」コーディネーターステップアップ講座(3人)	B	県主催「地域協育ネット」コーディネーター養成講座(2人) 県主催「地域協育ネット」コーディネーターステップアップ講座(2人)	173	B	養成講座受講生の活躍の場として、養成講座受講修了者に研修会のファシリテーターとして参加してもらった。	B	放課後子ども教室関係者、PTA、子ども会関係者など、多くの方に情報発信をし、養成講座受講者を増やすとともに、研修等の機会を利用した受講者が活躍できる場を設定する。	生涯学習課	
								到達度	3				
								事業効果	3	養成講座受講生の新規開拓をしていく必要がある。			
								効率性	2				



内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	課題				
ア 各種ボランティア活動の支援	92	三世交代流事業等、高齢者がいきいきと活動できるボランティアの場の提供	各地区において三世交代流事業として、さまざまな催しや教室を開催する。また、指導者バンクへの登録を呼びかけ、地域を越えた活動の場を提供する。	各地区において、体験学習やスポーツ交流等を実施(実施地区数13箇所)計83回、参加者(延べ4883人)	B	各地区において、体験学習やスポーツ交流等を実施(実施地区数13箇所)計74回、参加者(延べ6,568人)	400	B	3	体験学習やスポーツ交流等を通して、サシ世代間の交流を図ることができた。	B	高齢者の生きがいづくりのため今後も継続していく。	高齢福祉課
								事業効果					
イ ほうふ幸せます人材バンクの整備・活用	93	『ほうふ幸せます人材バンク』の周知及び登録者による公開講座(学ぼうやセミナー)の開催	生涯学習に関する豊富な知識や経験、技能を持つ個人や団体を指導者バンクに登録し、自発的な学習や活動の場へ指導者として派遣することで、市民の生涯学習活動を推進するとともに制度の周知を図る。また、登録者による公開講座を開催し、市民の自主的な学習を支援する。	利用申込(133件) 登録状況:団体(52)、個人(101)、企業(9) 【春季学ぼうやセミナー】13講座:参加者(延べ307人) 【わくわく学び塾】4講座:参加者(延べ71人) ※夏季学ぼうやセミナーは新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止	B	利用申込(194件) 登録状況:団体(50)、個人(101)、企業(9) ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和4年7月30日(土)開催 18講座、参加者(延べ308人) 【春季】令和5年2月26日(日)開催 17講座、参加者(延べ312人) ・わくわく学び塾 4講座、参加者(延べ48人)	154	B	3	学ぼうやセミナーなど、概ね計画どおりに事業を実施することができた。利用申し込みは増加傾向にあり、活動について一定の効果があると思われる。	B	情報収集を行い、新たな指導者の登録を呼びかける。開催時期の調整や企画内容を検討しながら、引き続き指導者バンク登録者の自主的な企画・運営による「学ぼうやセミナー」や「わくわく学び塾」などの講座を開催する。	生涯学習課
								到達度					
イ ほうふ幸せます人材バンクの整備・活用	94	「指導者バンク」と「支援者バンク」の一体的な運用の促進	「指導者バンク」と「支援者バンク」の一体的な運用を行い、「ほうふ幸せます人材バンク」の充実を図る。また、研修会を開催し、情報交換や交流の場を設ける。	利用者のニーズに応じて指導者バンクと支援者バンクを使い分けることで人材バンクの効果的な活用を努めた。	B	利用者のニーズに応じて指導者バンクと支援者バンクを使い分けることで人材バンクの効果的な活用を努めた。研修会を開催し、活動目的の整理を行うとともに今後どうしていきたいかということを考える機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和5年2月1日(水) 内容 活動紹介、講演、情報交換等 参加者数 28人	7	B	3	概ね計画どおりに事業を実施できた。	B	継続して推進する。	生涯学習課
								到達度					

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(2) 学習成果を生かす機会の充実
施策の展開	② 学習成果を発表する機会の充実
施策の方針	学習した成果を発表することは、社会への還元となるとともに、学習者にとっても喜びとなり、更なる学習意欲へとつながる。作品展、発表会の開催や、活動のPR展示を行い、日頃の学習成果の発表の場を提供する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の 施 内 策	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 学 習 成 果 発 表 の 機 会 づ く り	95	生涯学習フェスティバル等、発表の場の提供	市民の日頃の学習成果の発表や、公開講座や体験コーナーを設け、様々な学習に触れることにより、市民一人ひとりの学習意欲を促進するとともに、様々な学習に触れる機会を創出し、自主的・主体的な学習を地域づくり、まちづくりに繋げていくことが重要であることを市民に啓発するために、生涯学習フェスティバルを開催する。	防府市生涯学習フェスティバルを開催した。25団体・個人が自主講座・発表会・活動PRを行った。	B	・生涯学習フェスティバル 開催日：令和5年2月26日(日) 来場者数：延べ2,428人 内容：28の個人・団体による自主講座・発表会・活動PR(展示)、文化センター市民教養講座・サークル作品展等	618	B	3	概ね計画どおりに事業を実施できた。新たに児童養護施設や幼稚園、老人ホームにも参加を呼びかけた。	B	継続して推進する。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
	96	地区文化祭や子ども読書フェスティバルでの作品発表等、公民館・図書館での発表の場の提供	学習意欲の向上や学習活動の奨励を図ることを目的に、地区文化祭、公民館まつり、サークル作品展等を開催し 学習成果の発表の場を提供する。 また、読書活動の推進を図るため、図書館ボランティアグループ等と協働して、子ども読書フェスティバル・防府図書館まつりを開催する。	地区文化祭又は作品展での作品発表(5館) ※新型コロナウイルス感染症対策のため、地区文化祭及び作品展の開催を中止した館がある。 防府市子ども読書フェスティバル(7月17日) (参加19団体/参加者 延べ203人) 図書館まつり開催(3月12日) (参加16団体/参加者 延べ約1,031人)	B	地区文化祭又は作品展での作品発表(11館) ※新型コロナウイルス感染症対策のため、地区文化祭及び作品展の開催を中止した館がある。 防府市子ども読書フェスティバル(6月5日) (参加18団体/参加者 延べ165人) 図書館まつり開催(10月15日) (参加17団体/参加者 延べ約1,239人)	-	B	3	コロナ禍により文化祭等開催できなかった館もあるが、規模を縮小するなど工夫し、学習成果の発表の場を提供すること コロナ禍ということもあり、来場者の少ない館もあった。来場者を増やしていくことが課題である。	B	地区文化祭や作品展は、学習意欲の向上に寄与しているため、今後も継続して行っていく。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
	97	市民文化祭等での各団体の発表の場の拡充	防府市文化協会に加入する各文化団体の「部門別文化祭」を開催する、また、市広報(各月1日号)に市民文芸コーナーを設け、文化活動に関心を持つ多くの市民に文化情報を提供し合い、防府市の文化振興を図る。 アスピラートでの市民ギャラリーの新設等	・市広報掲載(月1回) ・市民大会(1回)川柳、俳句、短歌、自由律俳句 ・第52回防府市市民文化祭(10月から3月)参加者(3,732人) (音楽祭、美術展他) ・市民ギャラリーの運営	B	・市広報掲載(月1回) ・市民大会(1回)川柳、俳句、短歌、自由律俳句 ・第53回防府市市民文化祭(10月から3月)参加者(4,042人) (音楽祭、美術展他) ・市民ギャラリーの運営	7,000	B	3	市民文芸コーナー、市民文化祭の開催、市民ギャラリーでのイベントを通して、文化活動発表の場を提供できた。	B	多様な文化活動の発表の場を提供し、魅力ある市民文化祭を目指す。	文化振興課 (文化・スポーツ課)
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
98	障害者ふれあい芸術展の開催等、障害のある人が学習成果を発表する場の提供	障害者ふれあい芸術展を開催し、障害者の創作活動の発表の場を確保する。主催する防府市障害者福祉団体連合会に対して、開催の支援を行う。	防府市障害者ふれあい芸術展開催を令和4年2月19日～令和4年2月20日で開催する予定であったが、コロナにより開催中止となった。	C	防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和5年2月11日～12日開催 応募総数 156点	-	B	3	報道機関等に芸術展の開催を案内し、PRを行った。	B	市広報等に開催記事を掲載し、作品の募集及び来場について周知を行う。	障害福祉課	
							到達度	3					
							事業効果	3					
							効率性	3					

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(3) 主体的な市民活動への支援
施策の展開	① 市民活動団体への活動支援
施策の方針	市民活動団体の活動を支援し、活性化を図る。特に、社会教育関係団体については、社会教育に関する公益的な活動を行い、生涯学習の推進に主体的に取り組む団体として、団体の自主性を尊重しながら、運営や活動の支援を行う。 また、公民館などでの講座修了者に対して、その学習成果を社会へ還元する意識の高揚を図り、市民活動団体として自立した活動ができるよう支援する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価
※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)			評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	事業効果	効率性				
社会教育関係団体の運営の支援及び学習サークル等の育成	99	社会教育関係団体の継続的な活動への支援	社会教育関係団体の活動に対して支援する。 補助金の交付、キャンプ用品等の物品の貸出し	社会教育関係団体への補助金の交付	B	社会教育関係団体への補助金の交付	3,228	B	概ね計画通りに補助金の交付をすることができた。  コロナの感染状況を考慮しつつ、キャンプ用品等の物品の貸出しを再開する必要がある。	C	継続して推進する。	生涯学習課		
				社会教育関係団体への補助金の交付		社会教育関係団体への補助金の交付		B					計画通りに補助金の交付をすることができた。	
	社会教育関係団体への補助金の交付	社会教育関係団体への補助金の交付	B	効果的な活動支援の手法の検討が必要である。										
社会教育関係団体の継続的な活動への支援	100	市民活動支援センターを中心とした市民活動団体への支援	指定管理者(特定非営利活動法人 市民活動さぼーとねっと)により、様々な支援を行う。	市民活動への相談 人材の発掘・養成、団体の登録 情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録196団体	C	市民活動への相談 人材の発掘・養成、団体の登録 情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録206団体	1,433	B	新型コロナウイルス感染症の影響を受け活動縮小や停止の団体もあるが、地道に活動を継続している団体もあり、継続した支援を行っている。  市民活動団体の基盤強化を図る取組を継続するとともに、市民活動に対する市民の参加意欲を高める取組が必要である。	B	市民活動への入り口として市民活動ボランティアマッチング制度を平成31年2月から運用開始した。この制度の活用と定着を通じて市民活動団体の基盤強化を図る。 また、地域の団体にも目を向けた支援を行っていく。 団体支援を個別支援・個別相談にするなど、ニーズに合わせた支援とする。	地域振興課		
				市民活動への相談 人材の発掘・養成、団体の登録 情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録206団体		B								
				市民活動への相談 人材の発掘・養成、団体の登録 情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録206団体		B								
社会教育関係団体・学習サークル相互の交流を図る機会の提供	101	様々な社会教育団体や学習サークルへ情報交換や交流の場(生涯学習フェスティバル)を提供し、広く参加を呼びかける。	防府市生涯学習フェスティバルを開催した。25団体・個人が自主講座・発表会・活動PRを行い、相互の交流を図った。	生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の28の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。	B	生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の28の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。	618	B	概ね計画どおりに事業を実施できた。  より多くの個人・団体が参加しやすいよう呼びかけが必要である。	B	継続して推進する。	生涯学習課		
				生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の28の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。		B								
				生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の28の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。		B								

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(1) 地域活動の拠点づくり
施策の展開	① 公民館・学校を中心とした拠点づくり
施策の方針	地域の教育力向上を図るための中核となる施設として、共通する地域課題の解決に向けて取り組む拠点となるよう、公民館での活動を継続して支援する。 学校が、保護者や地域住民の力を活用した活動の拠点となるよう、学校支援活動を推進する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	効率性				
ア 地域コミュニティ活動の支援	102	公民館を中心とした地域コミュニティ活動への支援	地域コミュニティ活動の中心的な役割を果たしている自治会に対して支援することにより、地域コミュニティ活動を更に活性化していく。また、施設備品の充実に努める。	自治会に対して事務委託費、振興助成金を交付 地区集会施設新設2件、改修13件の助成 地区集会施設改修1件の助成 児童遊園改修1件の助成 傘礼、野島、華城地域の各種活動用備品の整備(宝くじ助成事業)	B	自治会に対して事務委託費、振興助成金を交付 地区集会施設新設1件、改修7件の助成 佐波、富海地域の各種活動用備品の整備(宝くじ助成事業)	98,899	B	3	地域コミュニティ活動の活性化につながる自治会館、施設備品の充実に努めることができた。	B	継続して実施する。	地域振興課
			地域からの要望に沿いながら、新設、改修等に対する支援の継続が必要である。	3									
				4									
	103	公民館の運営方法についての調査・研究の推進	公民館は地域課題を解決する拠点として活用するため、今後「地域コミュニティ活動」のあり方を含めて、調査・研究する。 各地区公民館運営審議会の開催等	各地区公民館運営審議会の開催	B	各地区公民館運営審議会の開催	1,170	B	3	各地区公民館で運営審議会を開催し、地域課題について協議を行った。	B	継続して実施する。	生涯学習課
					3	各公民館での地域課題については運営審議会等で協議を行っているが、地域コミュニティのあり方を含めて研究する必要がある。		3					
					3								

内容 施策の	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課		
								到達度	効率性						
イ 公民館・学校 の連携による 学校支援活動の 推進	104	コミュニティ・スクールの推進等、地域ぐるみで学校を支える取組の推進	学校を支援する活動として、コミュニティ・スクール等を推進する。 「防府まるごと学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催等	「防府まるごと学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月→今年度書面開催、2月→中止) 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	B	「防府まるごと学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 第1回は集合、第2回はオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	463	B	3	「防府まるごと学校のつどい」はより多くの方が参加しやすいようにオンライン開催とした。 学校運営協議会に地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事が1名以上参加し、地域連携教育プロジェクト会議で情報共有した。	B	校長会、教頭会、校内研修等の機会を利用して、教職員や地域の方を対象とした研修を行い、学校運営協議会と地域協育ネットの運営の仕方についての理解を深める。 市内各小中学校の好事例を紹介し、地域連携教育の取組の参考となるようにする。 学校・地域連携カリキュラムの活用、実践をおとじて、学校支援、地域貢献の取組の充実が図られるよう助言する。	学校教育課 生涯学習課		
	105	「指導者バンク」と「支援者バンク」の一体的な運用の促進(再掲)	市内すべての地域協育ネットが、「コミュニティ・スクール推進協議会」、「ほうふ幸せます人材バンク」を通して繋がるよう、一体的な運用を推進する。 プロジェクト会議等	「防府モデル」が始動し、組織的、計画的にコミュニティ・スクールが展開プロジェクト会議(月2回程度) 地域連携担当者会議(8月)2月は文書開催	B	「防府モデル(R4改訂版)」を「防府まるごと学校のつどい」等の研修で取り上げ、「指導者バンク」「支援者バンク」が組織的、計画的に運用されるようにした。 地域連携教育担当者研修会(8月、2月)	-	B	3	地域学校協働活動推進員を中心に「指導者バンク」「支援者バンク」の活用がなされた。	B	研修会等の機会を利用し、「指導者バンク」「支援者バンク」についての情報交換を行う。	生涯学習課		
	106	放課後子ども教室の開催等、放課後や週末の子どもの居場所づくりの推進	放課後や週末に、安全・安心な子どもたちの活動拠点となる居場所を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行う。 児童館の運営(児童館行事等)	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 留守家庭児童学級の児童も参加 市内放課後子ども教室への参加児童数(延べ2,923人) 新型コロナ感染症対策をしながら、各館2回程度の児童館行事を行った。	B	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 留守家庭児童学級の児童も参加 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人) 児童館の運営・児童館行事の実施(各館4回程度)	3,568	B	3	新型コロナウイルス感染症のため規模を縮小していた放課後子ども教室も参加者・回数共に徐々に増えつつある。	B	情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、ボランティア養成講座等の機会を活用し、運営側のスキルアップを図る。また、学校主導型の地区については、状況を応じて地域主導型へ移行するなど、持続可能な体制づくりに努める。	生涯学習課		
	107	家庭教育学級や就学期子育て講座等の公民館による講座の充実	公民館講座において、「教養向上」以外に「家庭教育・家庭生活」「市民意識・社会連帯意識」「指導者養成」等の現代的課題に取り組む。講座で学んだ学習成果を学校支援やまちづくりに生かすことができるように支援する。	公民館家庭教育学級(延べ822人) 就学期子育て講座(12校)9月～11月にかけて実施(3校は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) 高齢者教室(延べ1,719人) 女性学級(延べ1,624人) 教養講座(延べ23,728人)※集計方法の見直し有	B	就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて実施 公民館家庭教育学級(延べ1,604人) 高齢者教室(延べ2,252人) 女性学級(延べ2,344人) 教養講座(延べ24,620人)	-	B	3	各公民館で、概ね計画どおりに講座等を実施することができた。	B	多様なニーズに対応した講座や教室の充実を図る。	生涯学習課		
	108	地域連携担当者や公民館職員との合同研修の充実	学校の公務分掌上に、地域連携(生涯学習、コミュニティ・スクール)担当教員を位置づけ、研修会を実施して、学校と地域の連携を推進する。	「防府まるごと学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月→書面開催、2月→中止)	B	「防府まるごと学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 第1回は集合、第2回はオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者研修会(8月、2月)	173	B	3	研修会では、好事例を紹介したり、グループワークを行ったりして、学校と地域の連携を図った。	B	地域連携教育を校内研修に位置付けたり、関係者それぞれの立場に応じた研修会を開催したりすることにより、地域連携教育への理解を深める。	学校教育課 生涯学習課		
										3	「指導者バンク」「支援者バンク」の認知度を高め、その一体的な運用を促進する必要がある。				
										3	運営形態が地域主導型と学校主導型とがあることで、教室間の連携がとりづらい状況にある。				
										3	新型コロナウイルス感染症対策を講じ、規模を縮小して児童館行事を実施した。				
										3	数年間、新型コロナウイルスの感染拡大により児童館行事を中止、又は縮小して実施していたため、児童館や児童館行事を知らない児童が増えている。				
										3	社会情勢や家庭環境の変化に伴う多様化するニーズに対応した講座や教室の充実が必要である。				
									4	地域学校協働活動推進員や教職員の地域連携教育に対する個人の意識の差が大きい。					

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(2) 地域の協働を進めるための仕組みづくり
施策の展開	① 家庭教育力の向上
施策の方針	子どもの発達段階に対応したさまざまな情報を提供するとともに、親子のふれあいや父親の子育て参加を促進する。 地域の身近なサポーター役として、子育てに関する知識や経験をもつボランティアを中心に、子育て家庭を支援するとともに、育児に追われ孤立しがちな保護者が地域で気軽に相談できる体制の強化を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の 番号	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)			評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	事業効果	効率性				
ア 地域ぐるみの 家庭教育支援の 推進	109	家庭教育アドバイザーの養成と活用	県が主催する家庭教育アドバイザー養成講座への参加を促し、その修了者を活用することにより、家庭教育並びに子育て支援の充実を図る。	家庭教育アドバイザー養成講座修了者が家庭教育支援チームの一員として子育て学習会等において活動した。養成講座修了者を対象とした研修会を実施し、5人の参加があった。	B	家庭教育アドバイザー養成講座修了者が家庭教育支援チームの一員として子育て学習会等において活動 家庭教育関係者を対象とした研修会を実施(養成講座修了者からは7人の参加)	-	B			子育て学習会等において活動していた機会が多く、今後さらに活躍の場が増えたいと考えられる。  養成講座受講生の新規開拓をしていく必要がある。	B	放課後子ども教室関係者、PTA、子ども会関係者など、多くの方に情報発信をし、養成講座受講者を増やすとともに、研修等の機会を利用した受講者が活躍できる場を設定する。	生涯学習課
								到達度	3					
								事業効果	3					
	110	家庭教育に関する相談体制の充実	家庭教育力向上のため、各公民館、文化センター、学校等において、子育てや家庭教育講座、親子や地域でのふれあい活動を開催し、交流の場の確保をする。公民館家庭教育学級等	公民館家庭教育学級14公民館で75回実施(参加者(延べ822人))	B	公民館家庭教育学級16公民館等で125回実施(参加者(延べ1604人))	5,824	B			各公民館で家庭教育学級を実施することで、親子や地域でのふれあいや交流の場を設けることができた。  社会情勢や家庭環境の変化に伴う多様化するニーズに対応した相談体制が必要である。	B	相談体制の充実を図る。	生涯学習課
								到達度	3					
								事業効果	3					
	111	就学期子育て講座や思春期子育て講座等、家庭教育学習の推進	学校と公民館を中心に地域で家庭教育支援を図るため、就学期を迎えた保護者に対し、子どもに対するこれからの接し方や学校生活などについて学ぶ機会を提供する。 また、中学校ではPTA研修会等の機会を利用して思春期子育てについて学習会を開催する。	就学期子育て講座(12校)を9月から11月にかけて実施した。 実施にあたっては、学校・公民館・生涯学習課間で連携して実施。	B	就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて、学校・公民館・生涯学習課間で連携して実施  思春期子育て講座(9校)を7～12月にかけて実施	90	B			就学期子育て講座については公民館社会教育指導員が企画し、講演会を行ったり、座談会を行ったりするなど、参加者や地域のニーズに即した開催となるよう工夫されている。  関係各所とのさらなる連携が必要である。	B	引き続き、連携を強化しながら実施していく。	生涯学習課
								到達度	3					
								事業効果	3					
	112	「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催等、「家庭の日」運動の積極的な推進	青少年を健全に育てるための最も重要な基盤である家庭を見直すために、毎月第3日曜日を「家庭の日」として、防府市青少年育成市民会議を中心として「家庭の日」運動の啓発活動の拡大を図る。 また、官公庁が行うイベントにおいても、「家庭の日」を念頭においた、スケジュール調整を行う。	山口短期大学との協働により「家庭の日」親子ふれあいイベントを市文化福祉会館で開催した。(7月、10月、11月)  防府市青少年育成市民会議の取組として、啓発用品を作成し配付した。(ポスター・チラシ・ノボリ旗)  市広報や広報紙「はばたき」へ記事を掲載した。	B	山口短期大学との協働により「家庭の日」親子ふれあいイベントを市文化福祉会館で開催した。(6月、7月、10月、11月、1月、2月)  防府市青少年育成市民会議の取組として、啓発用品(ポスター・チラシ・ノボリ旗)を作製し、配付した。また、「家庭の日」運動に係る標語を募集し、入賞した方に記念品等を贈呈した。  市広報や広報紙「はばたき」まなぼうやだよりに記事を掲載した。	2,181	B			啓発用品による周知だけでなく、「家庭の日」運動に係る標語を募集することによって、応募者を始め、関係機関へも、改めて「家庭の日」運動について周知することができた。  関係機関と連携し、さらなる啓発活動に努める必要がある。	B	さらなる周知に繋がるように、継続して啓発活動を実施する。	生涯学習課
								到達度	3					
								事業効果	3					
								効率性	3					



内容 施策の	連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業 評価 (3年度)	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
								到達度	課題				
イ 子育て支援体制の 整備・充実	113	地域の子育てサークルの支援 子育てを支援するボランティアの活用	母子保健推進員が地域の身近なサポーター役となり、乳幼児を持つ保護者等が安心して子育てできるように、訪問活動の実施や各地域での子育てサークル等の母子が集える場を提供する。 母子保健推進員による訪問活動、各地区子育てサークル、わいわいHOFUっ子の集い等	母子保健推進員による訪問活動：(3,356件) 子育てサークル：(3地区、6回、延65組)	B	母子保健推進員による訪問活動：3,397件) 子育てサークル：(14地区、44回、延410組)	1,097	B		母子保健推進員による家庭訪問や子育てサークル活動は、コロナ禍前の状況に戻りつつある。子育て中の親の孤立を防ぎ、地域とのつながりをもつ重要な機会となっている。  子育て中の保護者が、母子保健推進員を通じて、地域の相談先(保健センター等)を知り、困った時には気軽に相談できるようになる取組が必要である。	B		健康増進課
								到達度	4				
								事業効果	3				
								効率性	3				
	114	企業等への「家庭の日」運動に関する広報・啓発	「家庭の日」運動に関する啓発活動を行い、子育てに関する環境づくりを促進するよう努める。	「家庭の日」の啓発活動 ・市広報への掲載(毎月1日号)	B	「家庭の日」運動の啓発活動 ・市広報への掲載(毎月1日号) ・チラシやポスター、のぼり旗の掲示・設置	-	B		防府市青少年育成市民会議が発行するチラシやポスター、のぼり旗を市の社会教育施設に設置・掲示することで、関係企業や住民への広報に繋げることができた。  関係機関と連携し、啓発活動に努める必要がある。	B	さらなる周知に繋がるように、継続して啓発活動を実施する。	生涯学習課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
	115	幼稚園・保育所(園)や地域子育て支援拠点等での子育て相談の実施	地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育てに関する相談を実施する。	保育所・幼保連携型認定こども園 22施設 地域子育て支援拠点施設 8施設 コロナ禍において、電話相談のみの実施となることもあった。	B	保育所・幼保連携型認定こども園 22施設 地域子育て支援拠点施設 8施設	-	B		保護者の育児不安の解消の一助になっている。	B	地域子育て支援拠点施設が子育てに関する相談の場となるよう引き続き実施する。	子育て支援課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				
116	5歳児(年中児)発達相談会の開催等、子どもの発育や発達の相談・支援の充実	0歳から18歳未満の子どもの養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じる。 年中児を対象に幼稚園、保育園を通じて問診票を配布し、希望者に発達相談会を実施し、育児支援、生活支援、就学支援を行う。(学校教育課と共催)	0歳から18歳未満の養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じている。 相談件数337人	B	0歳から18歳未満の養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じている。 相談件数※441人	-	B		保護者の育児不安の解消の一助になっている。また、関係機関と連携し、支援することができている。	B	児童福祉に関する相談に応じ、育児不安の解消や解決方法を模索するとともに、関係課、他市町との情報連携を引き続き実施する。	子育て支援課	
							到達度	3					
							事業効果	3					
							効率性	3					
				5歳児(年中児)発達相談会：11回(参加者68人)	B	5歳児(年中児)発達相談会：11回(参加者77人)	305	B		子育てやお子さんの発達に関する相談の場となっている。  臨床心理士等相談員の確保が難しい現状にある。	B	継続して実施	健康増進課
								到達度	3				
								事業効果	3				
								効率性	3				

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(2) 地域の協働を進めるための仕組みづくり
施策の展開	② 学校・家庭・地域の協働の推進
施策の方針	コミュニティ・スクール、学校支援地域本部事業、放課後子ども教室事業など、保護者や地域住民が学校支援活動を通じて築く豊かな人間関係による、地域の教育力の向上を目指す。 また、保護者と地域住民とのつながりを深めるため、公民館などで地域住民と協働して家庭教育に関する講座を開催するなど、学習機会の提供に努める。

【評価】  
評価項目の合計点数をもとに記入  
A～Dで評価  
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】  
それぞれ1～4(点)で評価  
※記入要領参照

【今後の方向性】  
A. 拡充を図る  
B. 現行のまま推進する  
C. 事業の改善が必要  
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の連番	主な取組	事業説明	3年度末実施状況	事業評価(3年度)	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)	評価コメント		今後の方向性	今後の事業への反映	担当課			
								到達度	課題						
ア 学校・家庭・地域が協働した教育支援活動の推進	117	コミュニティ・スクールの推進並びに地域ぐるみで学校(部活動等)を支える取組の推進(再掲)	学校を支援する活動として、コミュニティ・スクール等を推進する。 「防府まるごと学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月→今年度書面開催、2月→中止) 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	B	「防府まるごと学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	463	B	「防府まるごと学校のつどい」はより多くの方が参加しやすいようにオンライン開催とした。 学校運営協議会に地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事が1名以上参加し、地域連携教育プロジェクト会議で情報共有した。	3	B	校長会、教頭会、校内研修等の機会を利用して、教職員や地域の方を対象とした研修を行い、学校運営協議会と地域協育ネットの運営の仕方についての理解を深める。 市内各小中学校の好事例を紹介し、地域連携教育の取組の参考となるようにする。	学校教育課 生涯学習課			
													3	複雑な校区を抱える地域協育ネットでの協議内容、取組の見直し。 学校運営協議会が形骸化(報告のみ)しており、質的向上をめざす必要がある(協議・熟議を重視した取組、児童生徒の参画等)。	
													3		
	118	放課後子ども教室の開催等、放課後や週末の子どもの居場所づくりの推進(再掲)	放課後や週末に、安全・安心な子どもたちの活動拠点となる居場所を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行う。 児童館の運営(児童館行事等)	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 留守家庭児童学級の児童も参加 市内放課後子ども教室への参加児童数(延べ2,923人)	B	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)	3,568	B	新型コロナウイルス感染症のため規模を縮小していた放課後子ども教室も参加者・回数共に徐々に増えつつある。	3	B	情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、ボランティア養成講座等の機会を活用し、運営側のスキルアップを図る。また、学校主導型の地区については、状況に応じて地域主導型へ移行するなど、持続可能な体制づくりに努める。	生涯学習課		
														3	運営形態が地域主導型と学校主導型とがあることで、教室間の連携がとりづらい状況にある。
				3,080	児童館の運営 ・児童館行事の実施(各館4回程度)	新型コロナウイルス感染症対策をしながら、各館2回程度の児童館行事を行った。	B	児童館の運営 ・児童館行事の実施(各館4回程度)	3,080	B	新型コロナウイルス感染症対策を講じ、規模を縮小して児童館行事を実施した。	3	B	アフターコロナに対応した児童館行事の実施方法を検討し、小学校を通じて配布する「じどうかいだより」等で多くの児童の参加を促していく。	社会福祉課
	119	社会教育指導員との情報交換等、学校と地域をつなぐコーディネーターの活用	学校と地域との連携を推進するために、調整役としてのコーディネーターの役割は大きく、コーディネーターの活用を図る。	「防府モデル」の運用に伴う公民館社会教育指導員との情報交換を図った。 県主催の養成講座を活用した人材の育成。	B	地域学校協働活動推進員の職務についての研修を公民館社会教育指導員を対象に行った(9月) 地域連携教育担当者研修会(8月、2月)	-	B	コロナウイルス感染症のため、5月開催予定であった地域学校協働活動推進員の職務についての研修は9月に延期して行ったが、円滑な推進のためにはもっと早い時期に行うべきであった。	3	B	研修を通して地域学校協働活動推進員の職務と責任を明確にすることで、地域学校協働活動推進員が活躍しやすいようにする。	生涯学習課		
														3	地域学校協働活動推進員(社会教育指導員)によって、取組方や意識に大きな差がある。
														3	
	120	家庭教育学級等、保護者や地域住民との協働による講座の開催	公民館学級(家庭教育学級・女性学級等)において、保護者と地域住民とのつながりを深めるよう努める。	公民館活動 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・公民館まつり	B	公民館活動 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・公民館まつり	5,824	B	概ね計画どおりに公民館活動を行うことができた。	3	B	地域のつながりをより深めるために、地域課題に即した学級プログラムの作成に努める。	生涯学習課		
														3	学級参加者にばらつきがある。
3															

### 第3次防府市生涯学習推進計画「目標指標」

基本目標1 いつでもどこでも学べる環境づくり						
指標項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標 (令和7年度)	担当課
「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」の利用件数（年間）	109件				130件	生涯学習課
公民館利用者数（年間：延べ数）	191,845人				220,000人	生涯学習課
防府図書館館外個人貸出者数（年間）	138,034人				147,000人	教育総務課
青少年科学館（ソラール）入館者数（年間）	32,530人				80,000人	生涯学習課
文化財郷土資料館入館者数（年間）	2,425人				3,700人	文化振興課 (文化財課)

基本目標2 ひとりひとりがきらめく人づくり						
指標項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標 (令和7年度)	担当課
『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者の派遣回数□年間)	194件				200件	生涯学習課
「学ぼうやギャラリー」の設置箇所数	15か所				15か所	生涯学習課
市民活動支援センターの登録団体数（年間）	205件				215件	地域振興課

基本目標3 学びを通じてつながる地域づくり						
指標項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標 (令和7年度)	担当課
放課後子ども教室開設箇所数	13か所				15か所	生涯学習課
放課後子ども教室に係るボランティア数（延べ数）	1,946人				3,100人	生涯学習課